

第16回
オリエンテーリング世界選手権大会
報告書

1995年8月14日-20日
Lippe (Germany)

二挨拶

S Q U A D 代表 宮川達哉

このたびは、1995年オリエンテーリング世界選手権大会に出場する日本代表チームを援助しようとする我々スコードの活動にご賛同いただきありがとうございました。皆様のご支援によりまして、チームは無事、世界選手権に出場し、成果を修めることができました。ここに厚く御礼申し上げます。

競技成績につきましては、本報告書に記された通りでございますが、着実な一步を歩みだした感があります。われわれは、この一步から後退することなく、二歩目、三歩目につなげていけるよう、日本チーム発展に寄与していきたいと考えております。今後とも皆様方のご支援をよろしくお願ひいたします。

第16回世界選手権大会報告書 目次

ご挨拶 宮川達哉

目次	1
日本選手団名簿	2
会計報告	2
世界選手権への準備・世界選手権日程	2
総括報告 藤井範久	6
女子チーム総括 吉田勉	7
男子チーム総括 村越 真	7
クラシカル		
入江崇	9
加賀屋博文	10
田島利佳	11
ショート		
福士淑子	12
金田収子	13
木植早生	13
鹿島田浩二	15
リレー		
落合公也	16
金子しのぶ	17
金田収子	19
概観		
鈴木康史	20
トレーニングキャンプ		
大西真理子	22
スペクター（観客）としてWMに臨んで	22
高橋厚	22
結果	25

日本選手団名簿

ジェネラルマネージャー	藤井範久
女子コーチ・トレーナー	吉田 勉
アシスタント	落合公也
同	大西真理子

選手

木植早生	村越 真（男子コーチ兼任）
金子しのぶ	鈴木 康史
福士淑子	加賀屋博文
田島利佳	鹿島田浩二
金田収子	入江 崇

会計報告

落合公也

賛助会員登録をしてくださった皆様、ビデオをご購入いただきました皆様、どうもありがとうございました。今回も皆様のご援助のおかげで遠征することができました。ここに会計報告をさせていただきます。

支出	収入
大会参加費	327,208
大会宿泊費	678,618
トレキャン費用	46,095
トレキャン宿泊費	342,803
レンタカー	333,201
ウェア購入費	320,000
食料費	64,467
郵便通信費・手数料	40,698
	2,153,090
	贊助金
	ビデオ売上
	選手負担金
	SQUAD負担金
	1,189,900
	62,000
	560,000
	341,190
	2,153,090

レートは、日本から送金した大会参加費等が65.85円/DM、現地経費が63.16円/DMで計算してあります。航空運賃は選手役員の個人負担となっています。世界選手権で使われた地図を買ってきました。大会会場で販売しますのでご利用ください。

世界選手権への準備・世界選手権日程

S Q U A D では、今回の世界選手権にむけて以下のようない準備を行ってきた。

1) 合宿

1994年5月(富士宮)
8月(駒ヶ根)
1994年10月(青梅)
1995年1月(裾野・富士宮)
4月(富士宮)
5月(富士宮)
6月(赤城)
7月(八ヶ岳)

2) 選考会

予備セレクション

1994年度に開催された大会のうち、以下に示す7レースを対象レースとした。各レースの上位20(女子は15)位までに、上位から順に20点(15点)、19点(14点)、・・・が与えられる。よいレース2レースの合計得点順に上位20人(15人)を予備セレクション通過者とする。

対象レース：筑波大学大会、東日本大会、西日本大会、朝日大会、千葉大会、早稲田大学大会、全日本大会

本セレクション

- #1 1995年5月14日(茨城・入四間)
#2 5月28日(群馬・五町田)

なお、全日本選手権優勝者である鹿島田・木植は、それにより選手として選考されている。各レースの上位1名、上位各1名を除いて合計順位の最も少ないもの1名が選考レースによって選考された。またコーチ・ジェネラルマネージャーによって、残り1名が選考された。

選考会では、男子18名、女子13名の参加があり、186,000円の収入があり、役員交通費・宿泊費、選手交通費補助、地図代、会場使用料、等で409,710円の支出があった。不足額については、SQUADが負担した。

選考会運営役員

第1戦：チーフ 藤井範久

青木卓也、石井龍男、石川恵美子、大西真理子、鹿島田浩二、木植早生
小海則人、小林岳人、小林正子、斎藤宏顕、佐々木慎一、櫻井太郎、新村公祥
高橋正樹、橘直隆、林ゆかり、都丈志、山内亮太、山川克則、山下和子

第2戦：チーフ 山岸倫也

大西真理子、柿並義宏、鹿島田浩二、木植早生、桐田幸宏、斎藤宏顕
櫻井太郎、新村公祥、諏訪雅貴、田中正人、千葉香織、中島淳一郎、福士淑子
藤井範久、三好暢子、村越真、山内亮太、和久田好秀

【第1戦】棚倉街道95.5.14

		9100 up575
1	村越 真	1:11:50
2	利光 良平	1:20:26
3	鈴木 卓弥	1:21:02

【第2戦】五町田95.5.28

		6500 up410		
1	入江 崇	51:12	6	1
2	加賀屋博文	53:22	4	2
3	鈴木 康史	56:51	5	3

4	加賀屋博文	1:23:48	4	平井 均	57:00	15	4
5	鈴木 康史	1:24:34	5	利光 良平	57:22	2	5
6	入江 崇	1:26:03	6	吉田 勉	58:17	NF	6
7	松澤 俊行	1:26:44	7	元木 悟	59:07	11	7
8	武田 光	1:26:57	8	富田 吉郎	59:35	16	8
9	広江 淳良	1:27:14	9	鈴木 雄輔	59:56	10	9
10	鈴木 雄輔	1:28:03	10	樋口 一志	1:01:32	13	10
11	元木 悟	1:28:52	11	鈴木 卓弥	1:02:45	3	11
12	落合 公也	1:31:27	12	落合 公也	1:03:52	12	12
13	樋口 一志	1:35:46	13	広江 淳良	1:06:02	9	13
14	菅原 琢	1:36:57	14	菅原 琢	1:06:13	14	14
15	平井 均	1:37:12	15	松澤 俊行	1:07:32	7	15
16	富田 吉郎	1:40:07		武田 光	DNF	8	NF
	吉田 勉	DNF		佐藤 隆徳	DNF	NS	NF

【第1戦】棚倉街道95.5.14

6700 up375

- 1 福士 淑子 1:12:27
- 2 金子しのぶ 1:17:48
- 3 田中 裕子 1:18:45
- 4 金田 収子 1:19:26
- 5 加納 尚子 1:20:42
- 6 鈴木夕紀子 1:22:35
- 7 千葉あかね 1:24:10
- 8 山口 純子 1:25:13
- 9 酒井 佳子 1:27:01
- 10 田島 利佳 1:33:07
- 11 金並 由香 1:38:16

【第2戦】五町田95.5.28

4300 up210

- 1 田島 利佳 47:13
- 2 金田 収子 52:18
- 3 金並 由香 53:39
- 4 酒井 佳子 54:03
- 5 田中 裕子 55:43
- 6 千葉あかね 56:16
- 7 金子しのぶ 59:04
- 8 山口 純子 1:01:20
- 9 加納 尚子 1:05:07
- 10 鈴木夕紀子 1:13:28

■WM95日本代表選手

- ・全日本選手権者 鹿島田浩二 木植 早生
- ・第1戦優勝者 村越 真 福士 淑子
- ・第2戦優勝者 入江 崇 田島 利佳
- ・合計順位 加賀屋博文 金田 収子
- ・コーチ推薦 鈴木 康史 金子しのぶ

3) 遠征日程

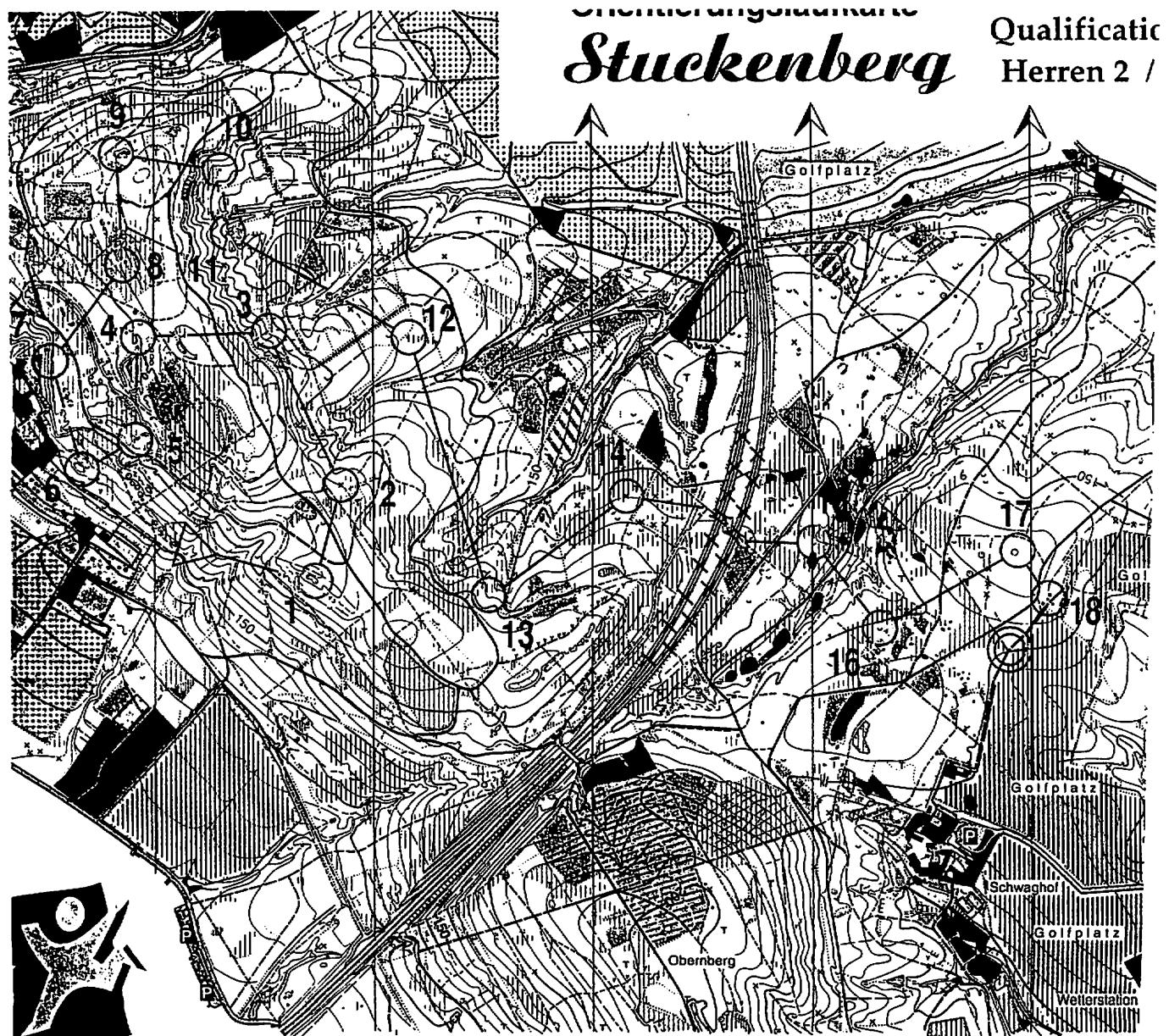
8月 6日 移動： フランフルト空港からデトモルトへ
夕方軽いジョグ

8月 7日 トレーニング (ELFENBORN、BIENEN-SCHMIDT)
(地図と実際の対応の確認)

8月 8日 トレーニング (TOENSBERG、LEMAGOE MARK)
(ルートチョイスを兼ねたスピードアップ)

8月 9日 ミックス・リレー

- 8月10日 休養日・ジョグ
8月11日 トレーニング (ELFENBORN)
ショート練習会 (LEISTRUPER WALD)
8月12日 スペクテーターレースに出場
8月13日 休養・ジョグ
8月14日 モデルイベント
8月15日 クラシカル予選
8月16日 クラシカル決勝
8月17日 休養/軽いトレーニング/スペクテーターレース参加
8月18日 ショート予選・決勝
8月19日 スペクテーターレース/休養
8月20日 リレー



ジェネラルマネージャー総括

ジェネラルマネージャー 藤井範久

はじめに、ドイツで行われた第16回オリエンテーリング世界選手権大会への日本チームの遠征に対して多額の賛助金をおよせいただき、日本チームを代表して感謝いたします。およせいただいた賛助金は、選手の個人負担金やS Q U A D の資金援助とともに貴重な遠征資金として活用させていただきました。また日本から激励の手紙を送っていただいた方々、そしてドイツまで直接応援に来ていただいた方々もおられ、チーム一同感謝の気持で一杯です。選手選考会、合宿、チャリティ大会の開催など、チームの遠征に協力してくれたS Q U A D のメンバー、その他の方々にも感謝します。

さて、詳しい成績はこの報告書の別ページを見ていただくとして、日本選手の成績を簡単に紹介します。クラシカル（ロング）レースは残念ながら男女とも予選通過者を出すことはできませんでしたが、ショートレースで木植が14位で予選を通過しました（15位まで予選通過）。世界選手権大会でショートレースが採用されるようになって初めての決勝レース出場者になります。午後に行われた決勝レースでは前半のミスによって60位（最下位）に終わりましたが、女子選手が決勝レースを走ったことは、現在の日本の女子選手の実力を考えると高く評価できるものです。また最終日のリレーでは、男子チームが35チーム中22位、女子チームが24チーム中22位とほぼ実力どおりの結果と言えます。しかし言い換えると、実力的に負けないチームには負けなかったが、できれば勝ちたいと言うチームには勝てなかつたというのが実情かも知れません。

前回の世界選手権大会での村越のショート予選11位から、今回の世界選手権大会では実力的に同等の鹿島田が村越とともに予選を通過することが大いに期待されていました。またそれを追いかける鈴木、加賀屋、入江の3選手にしても、完璧なレースをすれば予選通過の可能性はあるはずでした。しかし男子チームでは予選通過者はゼロ。東欧圏、特にソ連の崩壊に伴う参加国、参加人数の増大が予選通過を困難にした要因のひとつと考えられます。しかし、ミスがなければ全選手に予選通過の可能性があるほど日本の実力が上がったことは喜ばしいことです。

一方、女子チームでは、木植の予選通過が快挙です。ドイツでの最終トレーニングキャンプ中の木植は、他の4選手（金子、福士、田島、金田）より飛び抜けて速かったし、さらには男子選手よりも安定した走りを示しており、十分に可能性はあると思われていました。そして彼女の性格そのままに冷静なレースをすることによって予選通過を果たした彼女は、以前の村越のようにも見えてきます。これまで、日本の女子チームは予選通過するためにはどのようなレースをすればよいのか、その指針すら手にいれていないのですが、他の女子選手にとっては木植を明確な目標として捉えていくことができるでしょう。

数年前「村越が4人いればリレーで上位が狙える」という話がありました。鹿島田は村越が歩んだ道を走るようにして村越に追い付き、そして並んだ。二人が通った道を他の多くの選手が追いかけてきました。そして2年後には「村越が4人・・・」、そして女子についても「木植が4人・・・」ということは達成できるでしょう。しかし「村越が4人・・・」だけを考えていたのでは、世界のトップは見えてきません。村越、鹿島田や木植が速くなり、また彼らを越えるような選手が現れる必要があります。

このように見ると、今回の日本チームは予選通過という（本来は）通過点でしかない目標に固執し過ぎたのではなかろうかという反省が生まれます。確かに現在の日本チームの実力では予選通過を目標にすることが、現実的な目標としていいものでした。しかし、特に男子チームについては、そろそろ決勝レースの順位を目標にするべき時期が来たのです。そのためには、これまでのように2年サイクルでの強化策ではなく、長期的な強化計画を立てていく必要に迫られています。皆さんの積極的なご意見やご批判がこの長期計画

には欠かせないものとなるでしょう。

本来、ここでは今回の世界選手権大会の総括を行うべきなのですが、最後に個人的な夢を。しかし決して夢に終わらせたくない夢を。「2005年、日本で世界選手権大会、表彰台に日本選手が・・・」。これからも日本チームへのご声援をよろしくお願ひします。

女子チーム総括

女子コーチ 吉田 勉

今回のWOCを振り替える時、特筆すべきはやはり日本初の女性ファイナリストを排出したということでありましょう。個人戦については出発前は誰かがボーダーに近い成績を出してくれれば良い位で、トップに対してのタイムに実際的な目標をおいていました。しかし現地入りしてから木植の調子がよく、クラシカルの結果もルートプランニングのミスによるもの、体力的な問題によるものを除けばほぼボーダーのタイムが出せていました。そのため現実的な目標として予選通過を意識してショートに臨むことができました。決勝ではミスが出てしましましたが、予選通過を目標とし、決勝のテレインへの対応の練習を一切行っていなかったこともあり、この快挙に水をさすものではありません。その先については次回を期待して下さい（彼女もまだ若いので）。さて、チーム全体としては、クラシカルの予選ではテレインが易しかったせいもありますが、ほぼ実力が出せたと思います。ショートについては木植以外はミスが多く、今一つでした。リレーは今回から1、2走が短く、3、4走が長いという形で行われました。これまででは調子の良いものから出して、できるだけレースになるようにするというオーダーで臨んでいましたが、今回はシステム変更に伴い現時点での実力を測るためにオーソドックスなオーダーを組みました。結果はほぼ9年並み（この時はチェコで行われ、やはり大陸的なテレインがありました）の成績となりましたが、消極的なレースながら、4人そろって大きなブレーキもなく最後まで順位の変化を期待できたという点で当初の目的は達せられたと思います（印象としては89年の男子並みになったのではといったところです）。

女子の今後の課題としては、走力は言うまでもありませんが、木植を含めてルートプランニング能力（より緻密な）、WOCを乗り切る体力があります。そして木植にあって他の選手にないものとしては、自分の技術に対する自信があります。ショートではコントロール付近にいながら自信のなさのために多くのロスタイルを出しておらず、それがリレーでの消極的なレースにつながっていると思われます。この克服には一つには多くの国際大会の経験が必要であり、もう一つは心理的なトレーニングが必要あります。なかなか困難な課題ですが、この事を常に意識し、ノルウェーのテレインに対する恐怖を克服することが次回の成功の鍵となるでしょう。温かいご声援ありがとうございました。

男子チーム総括

男子コーチ 村越 真

今回の男子チームは、チームの5人がもっともよく準備して臨んだ遠征である。また準備をすれば、それに応じた結果が出ることを確認でき、日本チーム全員が世界の選手たち

と同じ舞台で競い合えることを示した最初の世界選手権であった。注目したいのは、入江、加賀屋が基礎的な技術、体力という面で予選通過に十分な能力を持っていることを示した点であろう。これは加賀屋のショート予選についても言える。この結果は準備段階から予想されたことであった。日本での合宿やトレーニングキャンプで、しばしば加賀屋や入江は村越や鹿島田に匹敵する結果を出していた。また鈴木もそれに近いタイムを残している。それ自体初めてのことと、さらにそれを本番の場面で結果として現れたのである。

新しいパターンでのリレーの成功も今回の収穫だった。これも全体として最もよく準備されたチームであったこと、そしてその準備が結果につながることを示すものである。これまでのリレーチームは、言うなれば先行玉碎、1走をエースがトップスピードで走り、第二集団くらい（トップと5-10分差）につける。その後速い順に走って、いけるところまでいく、そういうリレーであった。確かに村越もその前に1走を走っていた杉山も高いパフォーマンスを示し、リレーの興奮を伝えてきた。それは「村越が4人いれば・・・」という空想も与えてくれた。しかしそれは、決してチーム全体の成功ではなかった。リレーとは当たり前のことながら、4人全員の合計タイムで競うものである。その意味から、1走を初出場である加賀屋でスタートしながら、次第に順位を上げ、参加国数に対する比率では過去最高の22位の結果を出したことは大きく評価できる。加賀屋、入江のタイムには改善の余地があることも確かである。二人とも最終ラジコンでコールを受けてから3分程度のミスをしているが、これは皮肉なことに彼らがこれまでの村越+鹿島田の走りのイメージから完全に自由にならないことを示している。それができた時、彼らはきっと村越や鹿島田と同程度のタイムを出せるようになるであろう。

村越が4人（あるいは鹿島田が4人）という状況が直ちに出現した訳ではない。しかしそれは現実味のあるものとなった。鈴木が本報告書で触れているように、これは加賀屋、入江、鈴木がセレクションを目標にするのではなく、セレクション通過後世界選手権でどう戦うかを常に考えてきたことの結果である。またもう一つの要因として、小集団でのトレーニングの普及を指摘したい。アメリカの世界選手権への準備にあたり、私と鹿島田は初夏のシーズンに随分と一緒に準備をし、お互いの練習の進捗状況を気にかけあった。加賀屋の成功は、その鹿島田と昨シーズンを通して練習をともにしたことが大きい。一緒に練習することは体力的なレベルを高めてくれるだけでなく、オリエンテーリングの楽しみを広げてくれるし、またやる気の動搖を和らげてくれる。

もちろん、今回の男子チームは評価すべき点ばかりではない。確かに鹿島田はよく準備した。しかし鹿島田、村越は前回の結果からクラシカル、ショートとともに予選の通過を目指し、それに応じた準備をしたはずなのに、結果として一度も予選通過ができなかった。加賀屋、入江、鈴木の成功は、いわば村越や鹿島田の追試、すでに分かっているプロセスの確認であった。それに対して予選の通過は、村越がこれまでに2回成功しているものの、その当時とは比較にならないほど参加選手数も厚くなっている。また、予選の走りがどの国の選手にも分かってきているいま、予選通過はこれまで私たちが経験したことのないプロセスを要求する課題となっている。前回は、あとほんのちょっとした努力をするだけで予選が通過できる、そう思われた。しかし根本的にアプローチの方法を見直す必要がありそうである。そのための新しい試みを怠ってきた点は、男子コーチである村越の責任である。ようやくチームのコーチがその技術的責任を問われるところまできたのである。

今回の結果で、ショート、クラシカルとも選手全員が予選通過に向けて準備することが現実的な目標となった。今回の選手一人一人にとっては、それがかなり具体的なプロセスとして感じられるはずである。それを集約するとともに、コーチとしての積極的な介入を次回の課題としていきたい。かつて私はメンタル・マネージメントによって89年の世界選手権での成功を勝ち得た。男子チームはこうした精神的な面でも怠りなく準備をする必要のある段階まで来ていると思う。

今回のチームがどのような準備を積んできたか、また今度どのような努力が必要なのか

については、「世界選手権技術報告書」に詳しく掲載されている。これは、遠征に参加した選手が、自分および自分たちに続く選手たちに向けて、世界選手権に向けての準備の過程を記録したものである。一般に対しても頒布しているので、興味のある方は事務局（稻葉英雄）まで問い合わせて頂きたい。

クラシカル予選

入江 崇

決勝に残ることはできるのは、各組30位まで。B、Cファイナルはないので、それ以下では次の日のレースは観戦することしかできない。もちろんそれはごめんだ。是が非でも予選を通るつもりだった。

今の実力では可能性は確かに低いかもしれない。しかしその可能性に賭けるレースをしようと思うだけの自信はあった。一年前のドイツのワールドカップの予選では33位という結果が出ていたし、その後のトレーニングキャンプでドイツのテレインの様子を詳細に知ることができた。そして何より大会1週間前からの現地でのトレーニングが絶好調で、必要以上にスピードを上げなくても大丈夫だという感触を得ることができた。自分のベストレースをすれば、決勝に残れるはずだ。

そう心がけてスタート。作戦どおり一つ一つの動作に十分に時間をかけて一番コントロールへ。やぶがちでわかりにくく、上位陣もかなりの人がミスをしているコントロールだったが、すぐに見つけて区間8位のタイムで順調に通過する。以後も確実なオリエンテリングが続く。少し丁寧すぎる感じだったが、2、3、4とノーミスで取る。序盤から中盤にかけてルートチョイスが続く7万までのレッグもいいルートを選び難なくクリア。レースの1/3以上が経過したが、トップとの差はまだ2分52秒。

しかし予定通りのレースはここまでだった。最も悔やまれるのが次の7-8。ルートチョイスを試される。大きな谷ごえのロングレッグ。様々案ルートが考えられるが、基本的には下って登る直線的なルートか、沢を避けて大きく道を回るかの二つ。ここで、プランどおりに道をまわりきれずに、やってはいけない中途半端なコンタリングルートをとってしまった。発想は悪くなかったのだが、予想以上にやぶがひどく、全然前に進んでくれない。この轍を抜けるのに苦労し、これが致命的な1分30秒のロスになってしまった。ここでファイナルへの挑戦は終わった。

集中力が一気にきた。一流ランナーならばここで再びレースに専念できるのだろうが、自分の身体は正直だった。このコースでこのミスはどう考えても取り返しがつかないのが分かった。レースを立て直そうとしても無理だった。

その後は集中力を欠いたレースをし、9番くらいで3分後のロバート（NZL）に追いつかれると、10番で約3分の大ミス。終盤はさらに腹痛も重くなってスピードがあがらない上にルートを考える気力もなくなって、みじめな気持ちでゴールする。トップと16分半、ボーダーからは9分差の平凡な結果に終わった。

まさかここまでひどい内容になるとは思っていなかったから、精神的未熟さ、心構えの足りなさをいやというほど思い知らされたレースだった。しかし世界レベルの大会3回目にして、初めて本気で決勝に残ることを考えて走れたレースとして、これを肯定的に評価するならば、大きな前進であると信じたい。

だとすれば次回こそ、目標を実現させる番だ。今回足りなかつたものを身につけて勝負するつもりだ。

クラシカル予選

加賀屋博文

8月15日。待ちに待ったWM初レース。今日はクラシカル予選の日。

今回はショートだけでなく、クラシカルにも予選が採用された。各国4名が2コースに別れて走り、各コース上位30名が翌日の決勝に進出できる。決勝Bはない。日本人にとっては予選を通過することが全てだ。

自分にとっては、日本にいるときから一番目標にしていたレースだった。直線11km、登距離440mのコースをトップの120%で走る。それで予選が通過できるかどうかは判らないが、実力を出しきれば可能な数字だと思っていた。

レースはまだ薄暗いドイツの森の中で、淡々と進んでいった。4番でアタックを30秒ロスした以外は順調。自分をコントロールしつづけることを念頭におき、速くはないがリズムに乗って進んでいった。ルートチョイスがあるレッグは、林の中で下枝によって走りづらいのを恐れて、全て道回りを選択した。時々こんなペースじゃだめだ、という考えが頭をもたげるが、後半フラットになるので、それまでは我慢、我慢と自分にいいきかせた。

8番から9番の登りを登りきって、平らな部分へ出る。ここから意識してペースを速くする。身体が緊張感から解放されて、段々と軽くなってくる。よし、いける！12番のラジコンをとったときはそんな心境だった。

残念ながら、自分のレースはそれまでだった。13番に向かう途中で思いもよらぬ腹痛が発生し、それに伴う急激なペースダウンと集中力欠如によって、最後の20分はただゴールに戻ってくるためだけに走った。

結局、75'55で、トップ(58'53)の129%の46位。予選通過ラインは68'で、8分及ばなかった。仮にゴールまで前半のペースのまま走ったならば71'でトップと120%となり、自分のペース設定は間違っていたことになる。それでもボーダーとはなお3分の開きがあるが、今の自分にはまだ予選通過が無理だったということだろう。だが決して縮められない差ではない。トップランナーとラップを比較すると、走力以上に、ショートレッグにおけるもたつきが大きい。これは前々からの自分の課題であった。ショートレッグを村越さんと同程度にこなし、あとわずかの体力の向上で十分クラシカルファイナリストの座を手にできるだろう。

自分と同コースを走った村越さんは、70'で2分及ばず。他コースのカッサーは前半2分のミスが命取りとなり、わずか1分差でファイナリストの権利を得られなかった。入江はカッサーを2分上回る、通過ペースで序盤をクリアしたものの、中盤のルートミスと自分と同じく腹痛で、後半沈んだ。結局日本人男子の通過者は0であった。

まあ、レース中に体調を崩したのは全く自分の不注意で、そういう点で自分はまだまだ実力不足だった。それでもWMを自分の思い描いた通りに走る喜びと今後の可能性を開かてくれた点で、このレースから学んだことは大きい。

クラシカル予選

田島利佳

1年前の5月の膝の手術からリハビリを経てWMに出場することになった。シーズン中は1レース走りきるのが精一杯で、疲労感はかなりのものがあった。体力的に不安が残るままのドイツへの出発である。が、初めてのWMでとてもわくわくしていたし、自分の力がどこまで出せるかはとても楽しみであった。

7月の最終合宿でクラシカル予選を走ることになり、それに合わせて調整を始めた。あとにあるショートもリレーもとりあえず予選をきっかり走らなくて始まらないと思い、疲れを残さないようにトレキャン中は過ごした。練習量は他の選手の2/3程度だっただろう。山に入りたい気持ち（？）も抑え、上手く自分のペースに持ち込み当日を迎えたと思う。

トレキャン中の森は、自分にとってそんなに抵抗がなく山に溶け込むような感じで対応できた。地面も硬く走り易く、スピードが出る。地形も日本の典型的なテラインをのっぺりさせた感じで、藪も似ていた。テライン自体には不安を余り持たずに当日に至った。気をつけることは、ルートプランと（ルートによってだいぶタイム差が出やすいテラインなのである）スピードのメリハリ、コントロール付近の情報とイメージをしっかりすること。

コースは6.82KM, UP 295Mである。スタート時間が遅いせいか、調整が上手くいったのか（スタートまでのバスで、真さんと一緒にいたのと、ご機嫌な音楽が流れていたのも大きいだろう）、精神的にかなり落ち着き、良い状態でスタートできた。ただ初めてのWM出場レースということに緊張していたのか、おっかなびっくりこなしたレッグがあったのは確かである。しかし特に大きなミスもなくリズムに乗って、60分前半のタイムは出せるだろうと感じながら進んでいった。が、中盤の7-8のロングレッグでバテ始め、スピードが落ちてきた。ルートミスも手伝った。そしてハプニングは起こる。

アタックでコンパスを振ろうとしたその時、なんとリングが外れてしまった。数秒のうちに、コンパスの持ち主の倫也コーチ、スタートで見送ってくれたオフィシャルの方々の顔、一年間トレーニングをしてきた自分、スタート直後の自分、コンパスのせいで遅かったよーと言い訳をしている自分が交互に頭に断片的に浮かぶ。せっかくのレースをダメにしたくないと必死にリングを本体にはめ込むのだが、動いていた体がすぐに静まるわけでもなく、ましてはやる気持ちを押さえられるわけもなく、なかなかはまらない。2分は経過したか。とうとう腹をくくり、正置と地図読みだけでなんとかしようじゃないかと、片手に外れたリングを持ちつつ（倫也さんだから持って帰らなきゃととっさに判断したのだが、あのレッグで実はおおいに役立つのだった）走り始めた。このことで、今までの順調なペースは一気に乱れ、動搖してしまった。心を落ち着かせようと思ってもなかなか難しいものである。その後はコントロール付近での動作、脱出などで戸惑い、またコンパスを振るところでは強引にリングをはめ、まわし、（これも普段の倍かかった）果して正しい方向を指しているのかと不安を持ったままだったし、スタミナ切れもあってスピードはかなり落ちてしまった。結局は方向も合っていたのだが、よくリングを落とさずゴールしたなあと妙に感心してしまった。

ハプニングはありつつ、それでも大きなミスもせず、全体的にはよくやった方ではないかという充実感はレース後にはあった。しかし時間がたつにつれ、もっともっと速く走れたのではないかという思いが沸いてきた。結果は69分16秒。トップは48分台、予選通過ボーダーは60分、早生さんは同コース63分台である。トップのタイムはだせそうにないが、ボーダーの60分なら出せないタイムではない。ルートミス、ハプニングはさておき、もっと自分のルートプランに自信をもって走り、もっとスピードがあり、スタミナがあり、集中しきれたら出るタイムだろう。私のタイムはそれより9分も遅いのである。

それが今の実力なのだ。心理面での動搖があったにせよ、技術的なミスは日本のレースの時と少しも変わらない。

スピードやスタミナをつけることは、日頃のトレーニングをしっかりしていけば強化されるだろう。しかし、レース中の集中力、リズムを持った走り、林の中でのスピード、地図と現地の対応、それに合ったルートプラン等は実際にオリエンテリングをしながら、意識的に取り組んでいかなくては身につかない。WMでのレースで自分の力を最大限に発揮するためには国内のレースはもちろん、海外遠征地などでも技術的な、心理面での課題を持って臨まなくてはと感じた。WMだから、海外だからそれらのことができないという問題では決してない。

今回、初めてのWMで、初めてクラシカル予選を走ってみて、これからもっと速くなり、ノルウェーでよいレースができるようになるためには、自分は何をしたらよいかをつかめた気がする。ヒントを下さったチームの皆様やコーチに感謝しています。そして何より、たくさん応援して下さった、賛助して下さった方々にとても感謝しています。本当にどうありがとうございました。

ショートレースを走って

福士 淑子

クラシカル予選・決勝から中一日空けての大会4日目。ショート予選のスタートは9:00～10:00で、暑さを感じることもなく、上々のコンディションでレースを迎えた。

私の組は4.4km、13P、up120m。結果はボーダーから9分30秒遅れの惨敗だった。前回のアメリカでは少し光の見えた通過ラインがとても遠くに感じられた。

スピードの出るコンピを想像して走り出したが、予想以上に集中力と丁寧さを要求されたコースだった。序盤は縦ハッチ（しだ等の下草が生えていて通行に時間がかかる）の中の微地形のコントロールが多く、細かい地図読みとどこを通るかが問題となり、後半はスピードの出るレッグの分、ルートどりや慎重さの積み重ね（+数分のミス！）がタイム差に出てしまった。テレインは日本的なため、特徴物などで戸惑うことはなかったのだが、林の走りにくさを考えて道走りをするか、直進的なルートをとるかで迷いや躊躇することが多く、細切れなOしがスピードを殺してしまったのと、通り易い所を走ろうとして方向を変える回数が多くなる分、チェックが増えたのが原因だった。ラップを見ると、見通しの悪いコントロールのレッグがボーダーの選手の160～180%とコントロール付近でまごまごしていることが端的に現れている。対応しやすい（日本とのギャップがない）テレインだけに、今抱えているOLでの課題がそのままレース内容にでてしまう結果となってしまった。

ミスをしないことが勝負の前提であるのに、依然として分単位のミスをしてしまうこと。この技術的な未熟さがほんの少し上位にいる国の選手と自分との差であり、しかも歴然と示されているタイム差であることを受け止めなければならないと思う。

早生さんの予選通過は、うれしさのあまり涙がでてしまった。これから世界に向けての身近な目標になるだけでなく、自分達にも実力とそれを発揮する力さえあれば、現実になることを示してくださったことはどれだけ後から続くものの励みになることだろう。今回のレースではあまり自分の持ち味を活かせない走りで終ってしまったが、課題が明確になった分、“夢を持って”次のステップにつなげていきたい。さまざまな形で応援してくださった皆様に感謝しています。

ショート予選 初めての世界選手権

金田収子

世界選手権出場が決って以来、出身大学、年齢を問わず、たくさんの人から心のこもった応援や、励ましの言葉をいただきました。日本代表として海外で走るのは、昨年のユニバを入れると二度目なのですが、今回の応援の多さからもWMの重みは伝わってきました。

女子のショートの予選は4つのコースにわかれ、それぞれ27-29人中上位15人までが決勝を走ることができます。約4.5km、アップ120M、コントロール数13でウイニングタイムは27-28分です。コースには使われないと想い込んでいた微地形にも前半にコントロールが置かれ、とまどった日本選手は多かったようです。

私もかなりのスピードを落し、慎重に進んだため、後半もリズムに乗り切れず、体調をベストにもっていけなかったこともあって苦しいレースとなりました。初出場ということで結果などよりものびのびしたレース、思いきりのよいレースを楽しんでこようという気持ちでいたのに、自分らしくないストレスのたまる内容でした。今までにも同じように楽しくないレース、悔しいレースはたくさん経験しましたが、今回ゴール後、応援してくれた多くの人の顔が浮かんで涙がでました。インカレでさえ、どんなに悔しくても自分のレース後にこんな気持ちになったことはありませんでした。悲しいレースは初めてでした。それだけいろんな人の気持ちが注がれている日本代表としての重み、もう私は一人で走っているのではないんだということを感じました。

予選通過はボーダー33分代でしたから、トップに比べ1レッグあたり平均30秒以内のロスしか許されないことになります。実際には数レッグはほとんどトップのラップをとるくらいでないと通過できないのです。どのコースもボーダーは秒差で、レース中「収子ちゃん大丈夫」と声をかけてくれた早生さんが14位で通過しました。

正直いってレース後、オリエンテリングをしたくないような何もかも投げ出したい気分になりました。でもファイナルを見ていて、秒差で次々に上回るタイムを出していく選手が必死に走っているのを見ているだけでゴールに釘づけになりました。自分がレベルは違うにしろ同じ舞台で戦っているのが不思議なくらいでした。そしてその中に早生さんいるのです。日本人でも予選を通過できる可能性を目の前で実証してくれました。

今回、代表という立場と世界の壁の厚さ、また同時に日本の女子の可能性を経験することができました。WMに参加しなかったら味わえなかった感動、そして今度こそという気持ちを忘れずに、これからも常にWMを目指してオリエンテーリングに取り組んでゆくつもりです。皆さん応援どうもありがとうございました。

ショートレースを走って

木植早生

ショートの面白さは、まさしく1分1秒で結果の決まるスリルである。4. 3キロで登りが115mで13コントロール。単純にいえば350mに一つコントロールが現れる。ルートチョイスにはほとんど差はみられないだろう。スピードを出すところとコントロール付近でゆっくりスピードを落とし、あわてず確実に見つけるところを区別することが重要だ。レースが短いから走りではそう大きな差は出ないだろう。とにかくアタックでうろつかない事がロスタイルをなくすことになる。分単位のミスは命とり、秒単位のミスでも通過は際どいものとなる。そんなことを気持ちの片隅において、予選のスタートに臨んだ。

予選の組の違う4人がいっせいに走りだす。まるでリレーのような気持ちになり、やや角度をずらして、似た方向に進む。でも自分は自分である。間もなく白い林を抜けると思いもよらぬ微地形地帯が出現、右のこぶ、左の凹地の連続であった。やや驚いたが、走りたい気持ちをぐっとこらえ、かなりスピードを落として慎重に一つ一つ確認して「わかるよ、いいぞ」とパンチ、小さなピーク、小沢、小尾根、鞍部と次々に出てきてはかなりの隣接コントロールもあり、とまどっている人もいた。レースの前半のまどわされそうな部分を運よくか、順調にかクリアして落ちついて中盤や走れる後半の走力重視のエリアで脚が重くなったものの、ラスト前で歓声が聞こえたし、頑張って走った。ラストコントロールをパンチしてオープンのゴールレーンを一生懸命走ると、国旗とサナエコールがよく聞こえた。しかも、「決勝いけるいける」、「走れ走れ」の声が一際大きく聞こえたから夢中でもっと速く走れ(0.5秒くらい縮んだ)、苦しい走りとはこんな感じかと日ごろ、全力を出し切っていない、楽をしているなと反省した(だけすごく苦しかった)。結果は29人中14位で決勝に進め、チームや日本からの応援の人がおめでとうと握手してくれ、肩をたたいてくれ、万歳をして喜んでくれた。私はそれが充分以上ありがたかった。実のところは嬉しいという気持ちはほとんどなく、少々驚いているのと、運もあるのだろうという想いだったが、予選以上に凸凹地帯である決勝で、どの程度クリアできるのかは楽しみに感じた。それと何秒かで予選落ちした人に笑われないような走りをしなくちゃと思っていた。

ファイナルは予選が遅かった人からスタートする。私は6番目のスタートだ。皆速そうに見える。多分クラシカルもファイナルを走った人ばかりだろう。リストをみるとデンマークもリトニアも4人づつもまわりにいる。一人づくってやるかと強気の発言(?!)。現実的には予選での順位維持で54位ねらい(ちょっと無理かも)、テーピングでがっちりしてもらい、見送られ、いよいよスタートした。あとで聞いた話だが、そのころゴールではヤーパンのサナエ・キウイーが日本初のファイナリストと紹介されていたそうだ。

慎重にまずゆっくり目で進む。やぶをつきり小道をわたっていよいよアタックポイントだ。小径の分岐からきたぞきたぞ微地形地帯!! クリアしてやるぞと予選の時うまくいったのをこれよしにと軽い気持ちを持ってしまったのが運のツキで現在地ロスト、はまってしまった。いきなりパニックになり、焦る。オロオロウロウロ、私らしくない行動と思うも、リロケートするまでだいぶかかってしまった。気がついてパンチするときにつぐうしろの(2分後スタート)のデンスケ(デンマーク)に追いつかれる。2へは私が一步リードして走る。ここで引き離しにかかる(これまた無理難題なはず)とよからぬ考えを起こしたのが大ロス。決定的なミスとなり、3の近くまでいってしまった。悲しい気持ちのまま中間の一気に約100m登る道すがら、2番目のデンマークに抜かれ、その後の4つ続く微地形では比較的うまくいき、残りの下りもとんとんと進み、ラスト前で3人目のデンマークに抜かれてしまふ。ラストコントロールの見える牧場に入った。凄い歓声だ。これまたあとで聞くところによると皆でJリーグの応援歌を替え歌にして盛り上がってくくれたそうである。100mのゴールレーンが300mくらいに長く感じられ、いろんな言葉の掛け声と拍手の中、ドイツ語と英語のアナウンスをかすかに聞き取り、チームメートの待ち構えるゴールへ飛び込んだ。1、2で申し訳ないミスをしてしまったが、予選も決勝もそののちラップ表で比べると、自分の回りや時としてトップの方のタイムとけっこ

う見劣りしないタイムのところもあったかと思うとちょっと面白いものだと思ったり、あとちょっと（ほんとはしっかりたくさん）頑張れば、私もチームメートもボーダー付近の成績が出せる可能性を感じた

決勝を走ったのは私だけだったこともあり、それこそ皆が皆注目してくれ、期待をしてくれてものすごく嬉しかった。そしてゴールレーンを駆け抜ける時のあの応援・声援が耳に焼きついていまも忘れない。知らない多くのオリエンティアの拍手、日本から来ている人たちの掛け声は特に大きく聞こえました。日の丸の小旗を振ってくれている、アナウンスではヤーパン、サナーキティーと紹介している。その時、チームのメンバー一人一人、静に見守ってくれている人、日本で待っている父母、頑張ってきてねと声をかけてくれたハガキをよこした友人、お餞別までくれた方々、そして日本チームに贊助会費をいただきました多くの人たちの顔が頭に浮かび、ファイナルは一生懸命走った。決勝を走れた喜び、大歓声のゴール、それもこれも自分一人ではなしえなかった。本当に皆さんのお陰と感謝している。

この思いは限られた紙面では表しきれない。ぜひ私から、観戦して下さった方々から直接聞いて欲しい。たとえ今回決勝に残らなかったとしても、私なりにトレーニングキャンプもスムーズに対応ができ、調子も上々で、アタックもほぼ完全にクリアし、スピードもあがり、スタミナもきれない状態に仕上がって不安なく各レースに臨めたのも、自分の力であり、皆の力によってでもあったと思える本当に充実した遠征であった。最後に支えて下さった皆さんありがとう！！エースとして引き立ててくれた皆さんありがとう！！力づけてくれた皆さんありがとう！！信頼してくれた皆さんありがとう！！そして次回もいこうといってくれた皆さんありがとう！！ そう、ノルウェーのより難しいテレインに挑戦したい。

50億分の60へ向けて

鹿島田 浩二

ショートディスタンス予選の最終リザルトを見たとき、クラシック予選を終えたときのような悔しさは感じなかった。それだけボーダーから遠かったからともいえるが、単純なミスの引き算をすれば通過できたという点では同じである。しかしクラシックはもしかしたら防ぐことのできたと思えるミスであるのに対し、ショートディスタンスでのミス（むしろロスといったほうがよいかもしれない）はあの状況においては必然的とさえ思えるミスであったのである。この日のレースで自分はショートディスタンスにたいする苦手意識さえもち始めていた。

ではショートディスタンスで自分が漠然と感じた壁は何だったのだろうか。テレインが予想外に藪や微地形が多く対応しきれなかったこと、クラシックの予選落ちで自分のポジションがより明確になり、厳しい現実に直面したこと、そういうた要因ももちろんあると思う。しかしそれとは他に、なにか自分のOLに決定的な欠陥があると感じた。

この疑問はラップ（この点今回のE-cardシステムは本当に有り難い）を解析してみてあっさり解決した。僕はショートディスタンスが苦手なのではない、ショートレッグが苦手なのである。事実クラシックでもショートレッグでは相対的に遅いし、ショートディスタンスでもコントロール数の少なかったトレキャン中のイベントでは好成績を収めていた。

1分30秒に一つの割合でコントロールのあるショートディスタンスでは、それだけコントロール回りの動作の機敏さが重要となる。この点で僕はまだまだ改善の余地があるし、

速くなれるはずである。なにせ僕らには村越真という身近なお手本がいるのだから。

クラシック、ショートディスタンスとともに決勝という一つの目標に向けて、また2年間の試行錯誤がはじまる。8合目まで登って改めて富士の高さに驚嘆した気分である。あるいは、存外頂きは目前の雲のすぐ上で、あっさり行き着くのかもしれない。いずれにしろ次回にはさらなる準備をして望みたい。

リレー観戦記

落合公也

前回アメリカでの世界選手権では男子が失格、女子が21チーム中19位であった。順位的には決して満足のいくものではなかったが、多くの宿題を、解くのが楽しみな宿題をもらった。今回はその答えを出すときだ。

今回からはリレーのレッグが1、2走のショートと3、4走のロングに分かれた。すべての国にとって、走順を決めるうえで頭を悩ますところとなる。レースの流れにのることを重視するか、長い距離を早く走るか、ゴール勝負に賭けるか。日本もおおいに悩んだ。特に男子、アメリカでは失格ながらも中堅国の仲間入りを感じさせてくれる結果が残っていた。これまでエース村越を一走にたて、流れにのることを重視する中堅国から下の国でよく見られる走順である。今回も当初はその予定で村越ー入江ー鹿島田ー加賀屋の順であった。この報告書を読まれる多くの皆さんもそう予想していたのではないでしょうか。しかし日本の中長期的に目標とするところは今の位置ではない。もっと高いところである。いつまでも村越一走ではいけない。総合タイムが速くなるようなオーダーで臨んでもいい時期がやってきている。WOCウィークが始まって加賀屋の調子も非常に良く、前日のミーティングで加賀屋ー入江ー村越ー鹿島田に変更した。

9時男子のスタート。WM史上最大の35カ国のエントリーである。一走35人の中に加賀屋もいる。ただ落ち着いてスタートしてくれることを祈るばかりである。スタートは会場の牧草地の中を等高線4本一気に登っていく。加賀屋も登っていく。これまでの世界選手権で村越がしていたように、最後尾を落ち着いて走っていった。

一、二走の距離は約8キロ。一走のゴールは45分後に始まった。トップはディフェンディングチャンピオンのスイスだ。45秒遅れて日本でおなじみのニュージーランドのAlastair Landelsがつづく。さらにスウェーデンやフィンランドが集団でチェンジオーバーしていく。前回のショートチャンピオンPetter Thoresenをたてたノルウェーは少し遅れる。トップから遅れること15分、60分で加賀屋が戻ってくる。25番目のチェンジオーバーだ。上出来、期待通りのレースだ。本人の顔からも笑みがもれる。続いて入江のスタート。世界選手権は2度目であるし、気分的に楽に走れる走順と2走を気に入っている。

二走のトップはフィンランドだった。わずか8秒差でスウェーデンがつづく。そして3位はなんとイタリアだ。意外な国の健闘に会場が驚く。イタリアのコーチも夢の様だといっている。スイスは3分ビハインドの5位に落ちる。細かく順位が入れ替わるレースだ。入江は60分をわずかに切るタイム25位と同順位でゴール、日本の壁、村越がスタートしていく。この時点でトップと27分差。なかなか調子はいい。一、二走の二人とも持てる力を出しきったレースのようだ。

三走でもレースが動いた。ロングのコースに入ってのトップはスウェーデン、155'27"でチェンジオーバー、クラシック優勝、ショート2位のMr。オリエンテーリングJorgen M artenssonがスタートしていく。いくらJorgenでも安心はできない。なんと14秒後に二走で

後退したはずのスイスがつづく。スウェーデンより3分も速いタイムで走り、トップに肉薄してきた。さらに3位にはフィンランドが5秒差でつづく。スイスの四走はショート四位のThomas Buhrer、フィンランドはクラシック二位のJanne Salmi、三チームともエースを最終四区に投入。見応えのある争いが期待された。日本は村越が賞禄ある走りを披露し、順位もふたつ上げ23位でフィニッシュ。日本の夢、鹿島田がスタートしていく。

四走の優勝争いでも波乱が待っていた。第一ラジコンでJorgenが早くも脱落。そのアナウンスに会場のスウェーデン応援団は消沈する。そして最初に会場に姿を現したのは、Thomas Buhrer、スイスだ。スイスの三連覇が達成された。遅れて一分後フィンランドが、さらに8秒後スウェーデンJorgenのフィニッシュ。Thomas BuhrerとJanne Salmiの笑顔と比べて、Jorgenの残念そうな顔が印象的であった。

上位がそこそこ決まるときさっさと表彰式を始めてしまうのが世界選手権である。今年は表彰式の前にゴールできるかと期待したが今年ほどの成績でもダメだった。女子の表彰式が始まりかけたとき、鹿島田がゴールレーンを駆けてくる。顔の半分が赤い。72分の見事なタイム。順位もひとつあげて22位。総合タイムは262'35"、優勝タイムとは48'14"の差。ショートのレッグが出来たとはいえ、今までになく小差であると評価できよう。間違いなく中堅国の中間入りを証明した。4人とも力を発揮できた結果である。今年のゼッケン番号は29だった。今年からは前回の世界選手権の順位の通りに番号が決まった。つまり次回のノルウェーは22である。この数字を少しづつでも小さくしていくこともこれから目標に丁度いい。けれども中堅国の中で順位を上げていくことは、これまた難しい。強化方法の更なる検討が必要になるだろう。今回オーストラリアチームがやっての世界チャンピオンOyvin Thonをコーチに招聘していたことは参考になるだろう。

宿題を提出しにいったはずが、また宿題をもらってきててしまった。今度の宿題はひとつ上の学年だ。これまた解きがいがあるぞ。

リレー

金子しのぶ

タイムオーバーで失格の89年スウェーデン。下にはアメリカチームがいたものの、前も後も大きなタイム差があった91年チェコ。4走でスロベニアを抜いて、初めてリレーらしい競り合いが出来たものの、1つ前のアイルランドとは30分も離れていた93年のアメリカ。これが過去3回の女子チームの成績です。はっきりいって自分たちのベストを出していこうという目標だけで、○×国には勝とうとか、そういったリレー独特の楽しさとは無縁のところにいました。

でも今年は違うぞ！WOCが始まってすぐにそう感じました。個人戦の予選のリザルトで、日本人が一番下の方を飾りたてるということがなくなりました。特に早生さんのショート予選通過は、日本女子も充分世界と戦っていけるという自信をもたせてくれました。そして参加国が増えたこともある（前回が19チームだったのにに対して今回は24チーム）、今年は私たちの手の届きそうなチームがいくつかありました。スペイン、カナダ、白ロシア。始めての「勝負をいどむのよ！」（早生さん談）というリレーにドキドキ、ワクワクしていました。おかげでリレーのメンバーに選ばれた時は、嬉しいような、怖いような不思議な気持ちでした。とにかく自分の責任だけは、しっかり果たそうという気持ちでリレーの日を向かえました。

当日の朝はすごく緊張していました。アップをしていても身体が重く、気持ち悪くて仕

方ありませんでした。もっとも、私は緊張するといつも気持ちが悪くなるのですが・・・しかし、この日の緊張は半端ではなかったらしく、アップ中に本当に吐いてしまいました。立ちくらみもおこし、倒れそうになる身体を必至にふんばって支えました。

しばらくして落ちついてから、汗だく（半分は冷や汗でしたが）でチームテントに戻ると藤井コーチの顔が見えました。ちょっとほっとしたので、大きくのびをしながら「うーん、快調、快調!!」といってニッコリしました。これは今回あみだした必殺技です。とりあえず笑うと、沈みそうな気持ちを、楽しいぞ、ワクワクするぞって方向にもっていきやすくなるのです。コーチやメンバーに心配かけなくてすむし、自分も楽しくなるし、なかなか使えます。

テーピングが終わるとちょうど1走よっちゃん（福士）のスタート時間でした。がんばれーと見送った後、レジャーシートの上でしばらくコロコロ。すると早生さんが「しのぶちゃん、落ち着いてね。あとはドーンと私にまかせて。」とおっしゃるではありませんか。ちょっとびっくり。今までそんなことを言う人でしたっけ？エースとしての自覚が出てきたのかなあ？でもそんなにショッチャって大丈夫かなあ？といらぬ心配をしながらも、やっぱり頼れる人にそう言って頂くと嬉しいし、安心できます。

スタートしてから32分後、フィンランドが1走トップでゴール。軽く動きながらよっちゃんを待ちます。50分ごろよっちゃんラジコン通過の知らせ。吉田コーチより「60分レースだと思っていいから」と言われ、とりあえず水を補給。スペインの2走がスタートしてしばらくすると、来ました、来ました。我らが1走よっちゃん！ちょっと疲れてるかな。いつもの笑顔じゃないぞ。

両手を差し出してお向えすると「藪に負けないでぇー」という言葉と共にタッチ。いよいよ私のスタートです。

マップ置き場までは登りだし、みんなも写真を撮ってくれているし、ニコニコ笑顔をふりまきながら走りました。地図をとってさあ本番です。

1番は無難に道まわり。2番は藪をきて、さあアタック！があたらない。どーしてー。しばらくウロウロして、あったーと思ったら番号違い。ひえーどーしょー。さらにウロウロ。2分くらいロスしたかな。あった、あった、ようやく見付かりました。で、あせって今度は脱出の方向を間違えてしまいました。あらら。

その後はペースが落ちたものの、順調に進んで6番でスペインに追い付きました。9番は藪の中の直進。怖いよー。いやだよー。と思っても前進するしかない！ようやく目的らしいクリアリングに出ました。なのに、コントロールはどこ？辺りを見まわすとオーブンっぽいところが、あっちにもこっちにも。えーん、ここでいいはずなのに～。と思ったら、上方にキラリと光るものが・・あれはまさしくパンチ台。コントロール位置を勘違いしていました。

気がつくと12番。最終コントロール。「しのぶーがんばれー」って日本人の応援の中、最後のパンチをしました。あとはゴールまで一直線に走るだけです。

アメリカのWOCが終わってから2年間、ずっとこのドイツのWOCを目指にしてきました。その間、いろんなことがありました。落ち込んだり、くやしくて泣いたり、ケガをして入院したり。このWOCの期間の1週間だけでさえ、いろんな事を感じ、そして考えました。つらいこともありましたが、全てWOCがあったからこそ経験出来たことです。そのWOCがあと少しで終わってしまう。そう思うと涙が溢れでてきました。「しのぶー。最後だ、がんばれー。」数人がゴールレーンを並走してくれています。あの声は富田さんかな？本当にドイツまで応援ありがとうございます。心の中でみんなに感謝しました。

涙目の中にも3走早生さんの姿がはっきりと見えてきました。本当にあとちょっとで終わりです。「しのぶちゃん、大丈夫よー。」私の泣き顔をみて、なんと思ったのか、早生さんがそんなふうに声をかけてくれました。泣き顔のまま、おもわず笑ってしまいました。そしてタッチ。早生さんがんばって！

この後、早生さん、りかちゃんと走って、結果としては24チーム中21位でした。この結果をどう判断するか、またアイルランド、スペイン、カナダとの差をどうとらえるかは、コーチに任せたいと思います。ただし順位を気にしながら4走まで見れたのは、女子チームでは初めてではないでしょうか。次回からは、もっともっとワクワクしたリレーが出来るようになると思います。

常に私たちをサポートして下さったオフィシャルやSQUADの方々、ドイツまで応援に来て下さった応援団のみな様、そして私たちに援助して下さったたくさんの方に、心から感謝しています。本当にどうもありがとうございました。

リレー観戦記

金田収子

今回WM95の舞台となったLipp地方で最も標高が高いというKoeterberg (500m) の裾野を中心に20日にリレーは行われました。会場は頂上に近い牧場で、少し霞んでいましたが、景色はかなり遠くまで望めました。朝方曇っていた空も晴れ、気温も上がっていきました。

女子のスタートは9時10分、今回のリレーは1、2走がショートで、4。2キロ、アップ210mトップタイム予想は30分、3、4走がロングで7。5kmアップ280m、50分というレースです。日本チームの走順は福士-金子-木植-田島で、前回までの一人ぼっちにならずリレーの競り合いを味わえるようにとエースを前に持ってきた戦術を、同じレベルで競える国が増えてきたということで変更しました。競える国にすべて勝つことができて23ヶ国中17位、だめでも21-22位が今回の目標でした。

1走福士さんは「写真は撮りやすいようにゆっくりいく」と笑ってスタートし、フラッグまでのオープンの登りをゆっくり地図を見ながら走ってゆきました。

トップはフィンランド、31分でゴール、ちなみにフィンランドはその後他国をよせつけず、トップを守り続け、金メダルでした。

日本は55分でゴール。42秒前にスペイン、3分30秒前にベラルーシがいる23位です。福士さんのやぶや倒木による生傷は一層増していました。「見せ場を作ったということで」と女王ぶりを発揮していました。緊張気味だったしのぶさんに「楽しみですね」と声をかけるとここにこしてうなづきました。スタートもにこやかに走ってゆきました。2走しのぶさんは50分後にゴール。ベラルーシとスペインをかわし、日本は21位に上がりました。早生さんのスタートは相変わらずで「早生さんがんばれー」という声に律儀に手をふってくれました。地図置き場まで追いかけて声をかけると、やっぱり地図をみつまも手を挙げてくれました。

3走早生さんがスタートして9分後にトップのフィンランド、さらに5分後にチェコ、スイス、スウェーデンのそれぞれ3走のゴールでした。ふいんらんどは抜け出し、残り3国の銀メダル争いとなりましたが、どの国もエース投入で会場は多いに盛り上りました。特に12秒差でスタートしたショートでチャンピオンになったスイスのMarie-Luce Romanensとスウェーデンのエース、ショートでは3位のMarlena Jansson とが、山の中を並走していくのがしばらくの間会場からも見ることができました。結局銀メダルはスウェーデン、50分でゴールして1位フィンランドにあと2分と追い上げる力走で、スイスはチェコにも追いつけず、4位となりました。

さて日本チームですが、3走早生さんは75分10秒ほどでゴール、女子の4走は4位

まえすでにゴールしており、5位で帰ってきた地元ドイツチームとほぼ同時に大歓声の中のゴールとなりました。うしろにいたスペインのエースは国際結婚した元スウェーデン人で56分というタイムを出し、抜け出してゆき、日本の順位は22位です。「収子の分まで走るね」といってくれた利佳さんは待機所に入る前に「いってくるよ」と私の腕をがっちり握んでいきました。4走のランナーが次々ゴールするためラジコンが混乱していたタッチドーンでしたが、順調にスタートでき、スタートフラッグでプランし、走ってゆくのが見えました。利佳さんも予定通り82分でゴール、順位も守り、22位でした（カナダが失格のため21位）。表彰式のさなか、入賞者と観客の間を駆け抜けたので、どのチームよりも観客が多くかったかもしれません。

皆、大きなミスというよりは細かなロスを繰り返したという形でそれなりにタイムをまとめて帰ってきたという印象でした。4人の合計は263分51秒、18-20位が240分代、17位のラトビアから上は230分をきっています。日本チームもあと一人5分速ければベルギー、スペイン、アイルランド、カナダと互角以上に戦えます。今の女子のレベルではそれ位のロスなら簡単に減らせるのではないかでしょうか。日本だって何年も真剣にWMを目指してトレーニングし、国内で競い合い、セレクションをして、この場に来ているのに、端から見ると、いつも簡単に大半の国に負けてしまうように感じてしまいます。それだけ世界の壁の高さを感じるとともに、しかしリレーの男子チームや早生さんのショートでの活躍ぶりをみているとまだ限界は上にある、可能性はあるということがわかります。2ヶ月分のサラリーをはたいてこんな遠くまで代表として来ているのです。初出場の利佳さんの口から、ゴール後「ノルウェーでは・・・」という言葉がでました。そう、常に中間的目標を設定して地道にこなしていくしかないのでしょう。こんな大舞台でそろそろ来るはずという時間に4人そろって帰ってきたことは地道な進歩ではないでしょうか。

ショートならびにWMについての所見

鈴木康史

私のレベルでWMにいくことは今回以降は無意味である。

今回私はショートのみの出場となった。もちろんこれは満足できるものではないが、仕方ないことである。自らの状態を考えれば納得せざるを得ない。これはショートの結果についても同じである。43分というタイムは、自分としてはそう悪くはなく、以下に書くように満足できるものでないが、納得せざるを得ないものだろう。

今年の男子メンバーは今までの代表と違い、明らかに世界を見ていたと思う。去年の秋のドイツ・ワールドカップのメンバー3人（加賀屋、入江、私）がWM代表に残ったことは、偶然ではない。3人がその時点からドイツのWMに目標をあわせていたことの現れであり、その結果の代表入りである。故に私の、そして他の二人の目標はもちろん村越・鹿島田に並ぶことであった。村越プラス格下の4人というような形のチームはもう充分に経験しつくした。そのようなチームはもういらない。結果的には、加賀屋、入江はその目標を現実のものとし、私一人が取り残された形となった。それはともかく、今年のチームは今までのチームとは全く違うものであったと思う。

私自身の準備について言及すれば、7月一ヶ月の脚の怪我で全く走れなかったことは、やはり2年間の準備をチャラにしてしまうほどのダメージであった。体力的なものはもちろんだが、精神的なダメージはそれ以上に大きかった。一時は本気で辞退をも考えた。ただし逆に考えればこのようなマイナスの地点から何とか走れるようになった。つまりはゼロの地点まで戻ってきたという一ヶ月間の努力は評価してもいいだろう。普通のトレーニングと同様の努力（精神的にはそれ以上だった）をして、リハビリに努め、そしてドイツ

入りしてから10日間で、普通なら1カ月かける調整を仕上げたことは自分自身素晴らしいと思う。ただし、この努力は他者に評価される種類のものではないし、本セレ終了時点で、他の4人との差を明確に分かっていた私がやろうとしていた努力でもなかった。だから私一人が取り残されたのは当然のことであり、満足できないのも当然だ。もちろん努力しても差がうまた保証はないが、それはまた違った満足を与えてくれるものだろう。

そしてさらに悪いことには、今回の怪我は完全なオーバーユースによるものである。つまりはWMに向けてのトレーニングに私の体が耐ええなかつともとれてしまう。だから「これが私の限界なのか」という思いが7月中に私を一番苦しめたものだった。実はドイツのWMに出て、それで引退ということが2年間ずっと頭の中にあった。だが、それはこのような形のものではないはずだった。今回の無念さはこのことも一因かなと思う。

それはともかく、ショートの43分という私のタイムは、今までのWMランナーの多く並のタイムである。私にとってはこのような最悪の状況で出せた最高のタイムであると思うし、最悪の状況に耐えて、何とかここまで持ってきたことについては、良い評価を下したいし、自分にとって意味のあることであるが、残念ながら、しかしそれはここまで止まりである。わざわざWMという舞台に出て、出すべき意味ではない。

今回のWMは待っていた記憶しかない。その長い間中、私にダメージを与え続けていたものは、のことだった。私がドイツにいる意味はどこにあるのか、ショートまでの日々は、ショートを走れさえすればと思っていたが、ショートを走っても意味は見いだせなかつた。自分なりによくやつたというのは、WMでは何の意味もないことがこの時わかった。結果が必要なのだ。今の日本チームに一番必要なものは結果である。リレーを走ることができなくなり、私が結果を出し、自らの行動に意味を見いだせる機会は2年後に持ち越されてしまった。しかし今のままのレベルでは行くだけ無駄になることは火を見るより明らかだ。更なる努力が求められているのだ。

今までのWMランナーの多くと同じレベルでWMに行くことは男子はもはや止めにせねばならない。いつまでも「村越・鹿島田」と言って彼らに甘えていてはいけない。今回リレーの前日のミーティングで急遽村越一走を止めたのはそういうことだ。村越1走がトップと2分差で帰ってきて、最後に20位ぐらいに落ちつくことに何の意味があるのか、日本のオリエンティアの皆さんにぜひともわかつていただきたい。もはや日本は村越のみではない。男子はここまで進歩した。故にWMを目指すオリエンティアも、このことを肝に命じなければならない。村越を超えよ。私のレベルでWMに言ってもそれは何の意味もない。

私はあと1回挑戦しようと思う。日本の代表としてリレーを走り、世界の競技者たちとCompeteすること。自虐的に自らを甘やかすのは止めにしよう。我々は明らかに世界の競技オリエンティアの一員である。「北欧に相手にされない」などと言いだしたのは誰だろう？クラシカル優勝者のヨルゲン・モルテンソンは村越をちゃんと競技者として認めている。ノルウェーの男子監督のエーギル・ヨハンセンには昨秋のトレキャンプで世話になったが、決して私と入江を見下したりしてはいなかった。我々はWorld Class orienteerであり、私もone of the world class orienteersである。

I.O.F会長のスー・ハーベイはリレーの表彰式で全ての競技者に向かって、こう語ってくれた。「失敗してもなお挑戦するあなたたちの勇気を讃えます。今回失望している人たちへ、戻ってきて下さい。」あれは私への言葉なのかもしれない。引退はしない。再び挑戦する。まだ私は真の限界を見ていないはずだ。

トレーニングキャンプの感想

オフィシャル 大西真理子

8月6日の早朝、私はチームの皆さんと合流するためにフランクフルトの空港へ向かいました。そこで再会した皆さんは、長時間飛行機に乗っていたにもかかわらず、その笑顔からは旅の疲れは少しも感じられませんでした。空港で予約していた車を借りて、いよいよ出発です。私はこれからオフィシャルとしての仕事がはじまるかと思うと不安と緊張でいっぱいでした。オフィシャルをするにあたっての自分にできることが何かあまりよく理解していなかったので、このような気持ちが先走りしたのでしょう。この私の気持ちを察してか、チームの皆さんのがいろいろと声をかけてくださったのは本当にありがとうございました。

翌日からは、いよいよトレーニングの始まりです。私もオフィシャルながらトレーニングにできるだけ参加させてもらいました。選手の皆さんは最後の調整ということもあって、それまで和やかに話をしていても、トレーニングするテレインに到着し、山の中に入る時間が近づくにつれて顔が引き締まっていくのがわかりました。皆さんそれぞれ自分の中でメリハリをつけながら調整していくのはさすが日本代表といった感じを受けました。

またトレーニングの合間に予定された休養日の観光においても、それぞれが思う存分自分のペースで楽しんでいるようでした。私のオフィシャルとしての仕事としてこの日の観光の予定を組むことも与えられたのですが、これといった仕事がないままトレーニングキャンプを過ごしそうになっていた私にとっては、これがとっても嬉しい仕事になります。お陰様で、その周辺の町にはガイドブックを通して非常に詳しくなりました。

トレーニング中に行われた参加各国合同でのミックスリレー、そして今回パンチとして使用されたEカードに慣れるためのショートの練習界などはオフィシャルながらも参加させて頂きました。ミックスリレーにおいては各国の選手と知り合える良い機会でしたし、思わぬ再会の場でもありました。この他にも、お遊びながらも見ることができた各国選手（日本も含めて）の走りはとても素晴らしいかったです。ショートの練習会では、まだ日本では経験した人が少ないEカードが使用できること、各国選手の走りを山の中で見たり、そして所によっては同じ位のペースを味わえたことなど貴重な体験をさせてもらいました。

トレーニングキャンプがおこなわた期間として1週間があったのですが、長かったようで、短かった（大会期間中はもっと短かった）1週間がありました。選手と違ってオフィシャルとして参加した私は、思う存分この期間を楽しみながら過ごさせて頂きました。

スペクター（観客）としてWMに臨んで

高橋厚

今年の世界選手権大会の「応援団」は夏のヨーロッパ各地の大会を回ってきた人たちも含めて10数名で、日の丸の小旗を持って日本選手に熱烈な声援を送った。そしてまた声援の送り甲斐のある日本選手の活躍だったと思う。

私の世界選手権大会の観戦・応援は前回2年前のアメリカでの大会について2回目だが、併せて開催されるスペクターズレース（いわゆる併設大会）で世界のエリート達の走ったテレインをその同じ地図で走る（今回は5日間のうちの2日）も大きな魅力である。

さて、今大会での日本選手の活躍について、男子では個人戦はクラシック、ショートと

も惜しいところでファイナルに出られなかつたが、もうほんの少しのところだつたし、特にリレーは欠く選手が予想タイム通りにすなわち全力を出し切つて帰つてきたことは本当に立派であり、応援する方にとっても嬉しいことであつた。

いま改めて触れるのは気の重いことだが、前回の大会の男子リレーはペナによる失格だつた。初め、成績速報パネルのまん中あたりにあつた日の丸のついた速報ボードが日本チーム失格のアナウンスとともに右端に移され、最後にはパネルからはみ出して落ちそうになつてふらさがつていた（速報パネルの長さが参加国の数よりなぜか1ヶ国分だけ短かつた）悲しい光景がいまでもきのうのことのように目に浮かんでくる。

しかし今回は全く違つた。表彰式が始まる前のゴール（表彰台の真下がゴールレーンになつていて、下位チームにとっては表彰台の選手と観客の間を走るという「嫌な」レイアウトになつてゐる）はできなかつたが、2列に分けられた速報パネルのうちの2列目ながら（編集注：これは速報掲示者のミスで、実際には1列目の最後に位置されるはずのタイムと順位であった）、上部に日の丸のついたボードが終始鮮やかに掲示されていたのである。

女子について特筆すべきはなんといつてもショートで木植さんが日本にとって初めて決勝に進出したことであろう。大きな前進であり、我々応援する方も多いに興奮したのであつた。応援する方の立場から勝手なことを言わせてもらえば、今大会ではクラシックの決勝の日は日本選手は誰も走れなかつたが、全競技日に応援したいものである。それは一つの目標にもなるのではなかろうか。女子については全体としてみるとまだ向上のための工夫、努力が必要のように思つた。心構えまで含めて。

さて、会場に日本チームのオフィシャルから聞いたことで、上位国の選手と比較してみたら、日本の選手は登りのレッグがはっきり悪い、平らなレッグではそれほど違わないのに、という指摘があつた。確かな根拠がある訳ではないが、私には誠に当を得た調査結果のように感じる。エリートオリエンティア個々の事は分からぬが、日本全般の習性として一寸きつい登りになるとみんな歩いてしまう。私が走つてゐる程度の登りでもゆっくり走つたり歩いたりが多い。海外では私のような年配者でも登りをガンガン走つてゐるのに驚かされ、とてもついてゆけない経験をすることが多い。エリートクラスといえども大部分のレースを国内で行つてゐる以上、日本の傾向に馴染んでしまつてゐることはないのだろうか。登りに強くなることで、もう一段の成績向上の可能性が期待できるのではないか。どうか研究テーマとしてこの点を突っ込んで調査されるよう期待する。

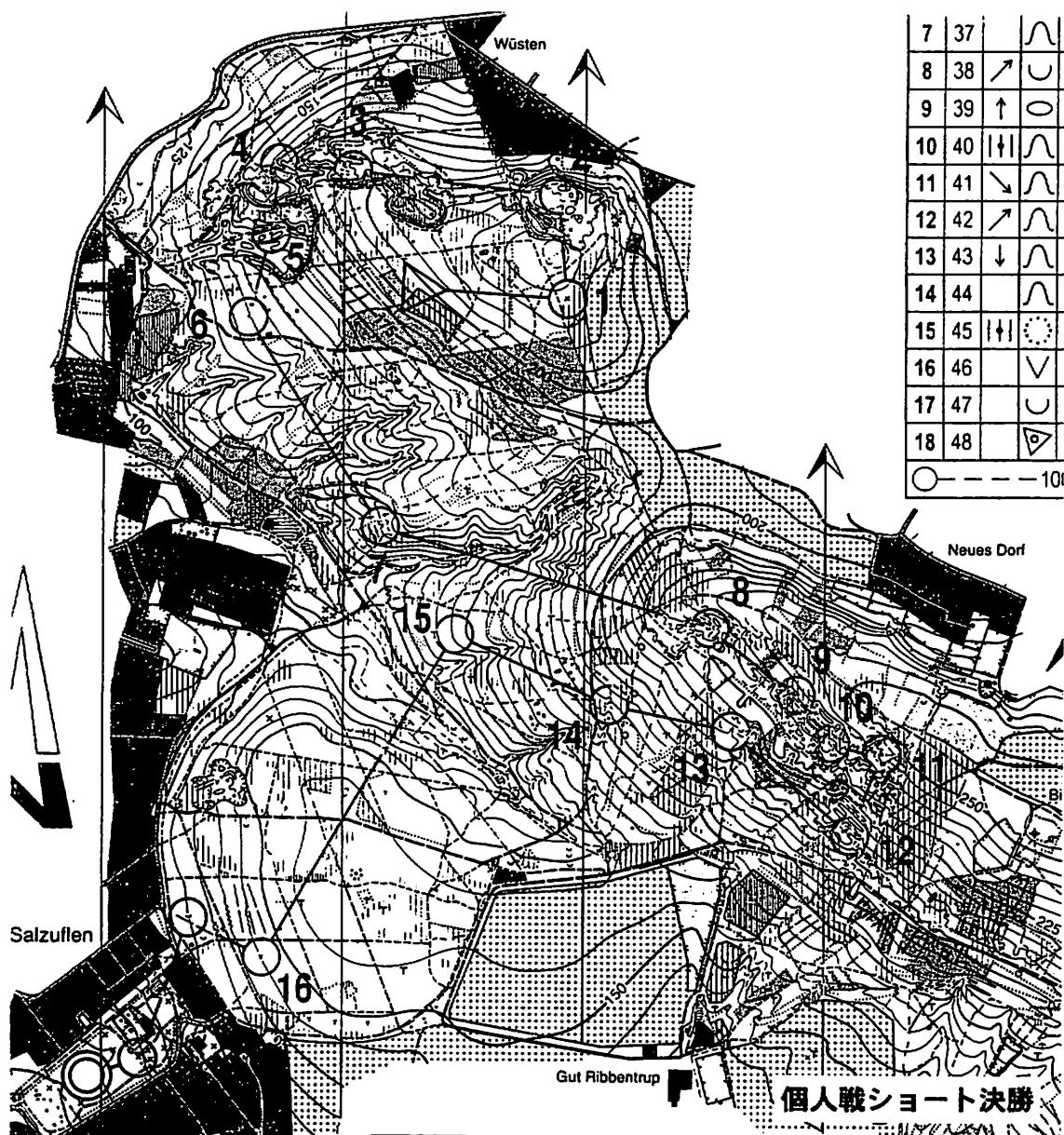
今大会での感激の場面を一つ紹介しよう。それはショート男子でのウクライナのOmeltchenkoの予想外の優勝である。Maartensson(SWE)を1分以上話しての堂々の勝利であった。表彰式では主催者も予想外のことでのウクライナの国家のテープが用意してなかつたのだろう（編集注：国旗と国家は各団体がもちよることになつてゐる）。年配のウクライナのオフィシャルが壇上で朗々と国家の独唱を始めた。素晴らしい独唱に併せて国旗を掲揚。歌い終わつたそのオフィシャルが何回も目頭を押させていたこと、Omeltchenkoが壇上から観客に深々とお辞儀をした姿が印象的だった。

今回の世界選手権も終わった。I.O.FのHarvey会長の極めて簡潔な開会宣言とともに、I.O.F旗が次期開催国ノルウェーに渡された。今回初参加の南アフリカなどを見ていると、日本もとにかくここまでよく上がってこられたなという感慨を持つ。しかし世界の壁はまだまだとつもなく厚く、高い。この先を考えると日本が中位国と見られるようになるまででも道は遠い。関係者の努力はこれからも続く。一般の方々ももっと世界選手権に関心を持っていただき、それに参加する選手・役員にいろいろな面でのご声援をお願いしたいものである。幸い多くの方々から賛助金が寄せられているようで心強い限りである。

日本のOL組織の上層部の方々にも、この世界最高のレベルのイベントを観戦し、併設大会をエンジョイしていただきたいものだと思っている。

最後になりましたが、役員・選手皆さん大変ご苦労様でした。今回の経験を最大限活か

して、一步一步上位を目指してほしいと思います。応援の方も自発的に参加するという形で、もう少しまとまつことができたらいいなと思っています。



結果

本報告書に掲載した結果は、主催者がインターネットによって公開したもの直接電子的に取り寄せたものである。英語にない文字（ドイツ語のウムラウト等）が文字化けしており、修正してあるが、レースによって綴りが違うことがあるので、ご了承頂きたい。

なおデータの取り寄せにあたっては、桜井太郎君（東大大学院）の協力を得た。

略号：

SUI：スイス FIN：フィンランド SWE：スウェーデン NOR：ノルウェー
CZE：チェコ GBR：英国 DEN：デンマーク RUS：ロシア LAT：ラトビア
FRA：フランス GER：ドイツ LTU：リトアニア AUS：オーストラリア
POL：ポーランド ITA：イタリア HUN：ハンガリー EST：エストニア
AUT：オーストリア UKR：ウクライナ NZL：ニュージーランド SVK：スロバキア
JPN：日本 BEL：ベルギー ROM：ルーマニア USA：アメリカ BLR：白ロシア
POR：ポルトガル CRO：クロアチア SLO：スロベニア ESP：スペイン
NED：オランダ KAZ：カザフスタン RSA：南アフリカ CAN：カナダ
IRE：アイルランド

クラシカル予選（8月15日）

男子予選1組

11.05 km - 440 m - 19 C.

1. JØrgensen, Carsten	DEN	1:02:02
2. Holmquist, Lars	SWE	1:02:42
3. Sadilek, Martin	CZE	1:02:44
4. Omeltchenko, Yuri	UKR	1:03:45
5. Bührer, Thomas	SUI	1:04:01
6. Pollak, Jozef	SVK	1:04:06
7. Valstad, Bjørnar	NOR	1:04:22
8. Zagars, Ivars	LAT	1:04:30
9. Salmi, Janne	FIN	1:04:49
10. Moszkowicz, Paweł	POL	1:05:07
11. Hjerrild, Thomas	DEN	1:05:22
12. Tvedt, Jon	NOR	1:05:29
13. Coupat, Olivier	FRA	1:05:33
14. Perrin, Eric	FRA	1:05:45
15. Pradel, Roberto	ITA	1:05:46
16. Voveris, Edgaras	LTU	1:06:07
17. Karppinen, Timo	FIN	1:06:16
18. Birklin, Jimmy	SWE	1:06:26
19. Zridkavesely, Libor	CZE	1:06:30
20. Brantner, Martin	AUT	1:06:33
21. Stanev, Orlin	BUL	1:06:41
22. Sibiliov, Sergej	RUS	1:06:46
23. Key, Warren	AUS	1:07:36
24. Kitchin, Andy	GBR	1:08:06
25. Grende, Ants	LAT	1:08:09
26. Kozlov, Vladimir	RUS	1:08:49
27. Halder, Lothar	GER	1:08:50
28. Domonyik, Gabor	HUN	1:08:51
29. Peel, David	GBR	1:08:57
30. Mikhailov, Alexandr	UKR	1:09:30

男子予選2組

11.00 km - 440 m - 20 C.

1. Martensson, Jorgen	SWE	0:58:53
2. Terkelsen, Chris	DEN	1:00:22
3. Ambrasas, Svajunas	LTU	1:00:57
4. Bjørlo, Kjetil	NOR	1:01:04
5. Aebersold, Christian	SUI	1:01:27
6. Hale, Steven	GBR	1:01:39
6. Mattinen, Reijo	FIN	1:01:39
8. Berger, Alain	SUI	1:01:41
9. Ropé, Rudolf	CZE	1:01:48
10. Alekseev, Vladimir	RUS	1:01:55
11. Palmer, Stephen	GBR	1:02:13
12. Thoresen, Petter	NOR	1:02:30
13. Parkkinen, Keijo	FIN	1:02:57
14. Landels, Alistair	NZL	1:03:06
15. Prokes, Tomas	CZE	1:03:37
16. Sild, Sixten	EST	1:03:41
17. Szczurek, Miroslaw	POL	1:04:28
18. Skovlyst, Torben	DEN	1:05:13
19. Ivarsson, Johan	SWE	1:05:25
20. Lantos, Zoltan	HUN	1:05:33
21. Trukhan, Igor	UKR	1:05:36
22. Bluett, Grant	AUS	1:06:05
23. Chtcherbina, Vitali	UKR	1:06:35
24. Sulcys, Nerijus	LTU	1:06:38
25. Viniczai, Ferenc	HUN	1:06:58
26. Jessop, Robert	NZL	1:07:06
27. Porzycz, Janusz	POL	1:07:20
28. Viitman, Alar	EST	1:07:23
29. Theiss, Robert	BEL	1:07:50
30. Gassner, Ferri	AUT	1:07:53

31. Banach, Robert	POL	1:10:05
32. Hotz, Daniel	SUI	1:10:07
33. Gamauf, Manfred	AUT	1:10:30
34. 鹿島田浩二	JPN	1:10:43

35. Ottesson, Rene	EST	1:11:14	35. Vegeris, Girts	LAT	1:08:38
36. Kaniski, Tomislav	CRO	1:12:14	36. Anori, Nikolai	RUS	1:09:06
37. Breckle, Rolf	GER	1:12:32	37. Trewin, Blair	AUS	1:09:52
38. Russell, James	AUS	1:12:48	38. 村越 真	JPN	1:10:15
39. Petit, Hugues	BEL	1:12:56	39. Chupek, Jozef	SVK	1:11:14
40. Wallner, Jozef	SVK	1:13:02	40. Simoni, Christiano	ITA	1:12:24
41. Nutju, Ovidiu Muguril	ROM	1:13:14	40. Goossens, Dirk	BEL	1:12:24
42. Duca, Ovidiu Nicolae	ROM	1:13:17	42. Edwards, Bill	IRE	1:13:49
43. Hennes, Michael	BEL	1:13:21	43. Andersen, Peter	USA	1:14:05
44. Tiit, Mati	EST	1:13:26	44. Derrick, Tim	USA	1:14:33
45. Rothery, Colm	IRE	1:13:30	45. Tobler, Michael	AUT	1:15:16
46. Ryzkov, Yuri	BLR	1:13:36	46. 加賀屋博文	JPN	1:15:55
47. Graham, Brian	CAN	1:14:46	47. Pardoe, Martin	CAN	1:17:07
48. Pinker, Marcus	IRE	1:15:39	48. Linton, Steven	IRE	1:17:28
49. Simanskas, Ramunas	LTU	1:16:13	49. Pompe, Tilo	GER	1:17:41
50. Scarborough, James	USA	1:16:29	50. Anderluh, Gregor	SLO	1:18:18
51. Salopek, Tihomir	CRO	1:16:59	51. Chirtac, Romica	ROM	1:19:29
52. Dalla Santa, Dennis	ITA	1:17:02	52. Simon, Andras	ROM	1:20:16
53. Sergio, Luis	POR	1:17:07	53. Aller, Antonio	ESP	1:20:30
54. Farquhar, David	NZL	1:17:13	54. Jevsevar, Bojan	SLO	1:20:38
55. Levai, Ferenc	HUN	1:17:39	55. Alexeenok, Alexey	BLR	1:21:10
56. Brautigam, Joe	USA	1:18:32	56. Falardeau, Francis	CAN	1:21:23
57. 入江 崇	JPN	1:18:42	57. Reis, Alexandre	POR	1:23:48
58. Palma, Paulo	POR	1:20:59	58. Duarte, Mario	POR	1:24:05
59. Rojas, Angel	ESP	1:24:11	59. Bespalov, Roman	BLR	1:24:35
60. Mooiman, Gerard	NED	1:25:15	60. Heikoop, Mark	NED	1:25:22
61. Boswell, Aidan	NZL	1:25:23	61. Nalobin, Valezi	KAZ	1:25:42
62. Eefting, Erik	NED	1:25:41	62. Talavero, Ramiro	ESP	1:29:21
63. Lebar, Danijel	SLO	1:26:02	63. Sajb, Lev	KAZ	1:30:50
64. Cyr, Eric	CAN	1:28:46	64. Chissick, Dan	ISR	1:31:22
65. Pineiro, Ramon	ESP	1:31:54	65. van der Riet, Gerrit	NED	1:32:37
66. Alexeenok, Alexandr	BLR	1:34:24	66. Marchiotti, Ivan	CRO	1:34:44
67. Poljansek, Ales	SLO	1:38:44	67. Keung, Yeung Kwok	HKG	1:43:21
68. Levitsky, Pavel	ISR	1:38:51	68. De Klerk, Gary	RSA	1:49:03
69. Egorov, Sergej	KAZ	1:39:10	69. Siegenthaler, Ruedi	RSA	1:50:35
70. Dutkiewicz, Colin	RSA	1:45:30			
71. Gathercole, Richard	RSA	1:51:42			

出場者数 71名

女子予選1組

6,82 km - 295 m - 12 C.					
1. Jansson, Marlena	SWE	0:48:58			
2. Konig, Vroni	SUI	0:50:16			
3. Olah, Katalin	HUN	0:50:25			
4. Hague, Yvette	GBR	0:50:32			
5. Granstedt, Anette	SWE	0:51:32			
6. Andersen, R Bente	NOR	0:52:16			
7. Koskivaara, Eija	FIN	0:52:54			
8. Honzova, Maria	CZE	0:53:03			
9. Honkala, Katja	FIN	0:53:18			
10. Schmitt Gran, Frauke	GER	0:54:01			
11. Kaljus, Kulli	EST	0:54:13			
12. Meister-F, Sabrina	SUI	0:54:39			
13. Soulard, Juliette	FRA	0:56:16			
14. Sandstad, Gro	NOR	0:56:24			
15. Kovacs, Bernadette	HUN	0:56:36			
16. Novotna, Petra	CZE	0:56:56			

出場者数 69名

女子予選2組

6,59 km - 305 m -12 C.					
1. Kubatkova, Marcela	CZE	0:49:52			
2. Romanens, Marie-Luce	SUI	0:51:14			
3. Garin, Anna	ESP	0:51:29			
4. Sandstad, Hanne	NOR	0:52:10			
5. GrOndahl, Christina	DEN	0:52:11			
6. Staff, Hanne	NOR	0:52:27			
7. Jaksanova, Tatjana	RUS	0:52:54			
8. Monro, Heather	GBR	0:53:34			
9. Tiira, Kirsi	FIN	0:54:12			
9. Palcau, M-Violaine	FRA	0:54:12			
11. Cieslarova, Jana	CZE	0:55:11			
12. Gustafsson, Maria	SWE	0:55:15			
13. Viilo, Annika	FIN	0:55:27			
14. Bokros, Andrea	HUN	0:55:51			
15. Bogren, Anna	SWE	0:56:26			
16. Pletnjova, Natalja	RUS	0:56:31			

17. Rasmussen, Tine	DEN	0:56:58	17. Lovasi, Katalin	HUN	0:56:37
18. Nikolova, Eleonora	BUL	0:56:59	18. Rowe, Natasha	AUS	0:57:11
19. Mansson, Danute	LTU	0:57:14	19. Staneva, Tatjana	BUL	0:57:12
20. Pilipenko, Galina	LTU	0:57:42	20. Robinson, Tania	NZL	0:57:45
21. Young, Alix	AUS	0:57:48	21. Bohm, Lucie	AUT	0:58:05
22. Fey, Zsuzsa	ROM	0:58:04	22. Vinnitskaia, Nina	UKR	0:58:15
23. von Gaza, Anke	GER	0:58:24	23. Hellmann, Kerstin	GER	0:58:26
24. James, Jenny	GBR	0:58:30	24. Wolf, Brigitte	SUI	0:58:44
25. Susta, Ieva	LAT	0:58:35	25. Creagh, Una	IRE	0:59:06
26. Wood, Antonia	NZL	0:58:48	26. Dickburt, Catherine	BEL	0:59:15
27. Bluett, Tracy	AUS	0:59:01	27. Rudzenskaite, Vilma	LTU	1:00:10
28. Rakimova, Svetlana	RUS	0:59:27	28. Gelderman, Marquita	NZL	1:01:24
29. Abola, Alida	LAT	0:59:48	29. Viner, Emily	AUS	1:01:26
30. Hall, Kristin	USA	0:59:52	30. Baczek, Barbara	POL	1:01:27

31. Fjordside, Yvonne	DEN	0:59:59	31. Dahl, Dorte	DEN	1:01:42
32. Nikitina, Iraida	RUS	1:00:21	32. Xylander, Anke	GER	1:01:52
33. Hartinger, Uli	AUT	1:00:44	33. Piolat-Mancini, Anne-M	FRA	1:02:12
34. Libantova, Katarina	SVK	1:02:08	34. Eades, Lorna	GBR	1:02:59
35. Habenicht, Regina	AUT	1:02:12	35. Hlostá, Manuela	AUT	1:03:50
36. 木植早生	JPN	1:03:16	36. Troi, Verena	ITA	1:05:04
37. Gronicka, Anna	POL	1:03:59	37. Voveriene, Giedre	LTU	1:05:11
38. James, Pamela	CAN	1:04:50	38. Simon, Agnes	ROM	1:05:19
39. Maturana, Encarna	ESP	1:05:40	39. Rakayova, Martina	SVK	1:05:48
40. Uroic, Dunja	CRO	1:05:56	40. Dickison, Peggy	USA	1:07:19
41. Adams, Jennifer	NZL	1:07:21	41. Pundure, Marite	LAT	1:07:52
42. Mironova, Anna	BLR	1:08:23	42. Leonovich, Alla	BLR	1:08:41
43. Brautigam, Pavlina	USA	1:08:53	43. Hribar, Anica	SLO	1:10:18
44. Masson, Elisabeth	FRA	1:08:56	44. Schutjes, Elisabeth	BEL	1:10:31
45. 田島利佳	JPN	1:09:14	45. 福士淑子	JPN	1:11:29
46. Hagen, Catherine	CAN	1:09:31	46. Stripp, Sandy	USA	1:12:31
47. Thijs, Amber	BEL	1:10:18	47. Graham, Marketa	CAN	1:13:25
48. Borstnik, A Pribakovic	SLO	1:10:42	48. Bruvere, Iveta	LAT	1:13:59
49. Loughman, Eileen	IRE	1:11:48	49. Bruno, M Catherine	CAN	1:15:24
50. Alexeenok, Valentina	BLR	1:14:14	50. 金子しのぶ	JPN	1:15:49
51. Renard, Francoise	BEL	1:16:15	51. Mulder, Katinka	NED	1:16:36
52. Sedran, Anna Angela	ITA	1:16:16	52. Cleary, Julie	IRE	1:17:51
53. van Gulik, Annemiek	NED	1:17:54	53. Sajb, Nadezda	KAZ	1:25:13
54. Chatscheglova, Irina	KAZ	1:23:36	54. De Osma, Mirian	ESP	1:33:34
55. Amigo, Anna	ESP	1:27:03	55. Silva, Alice	POR	1:36:56
56. Almeida, Katia	POR	1:54:41	56. Bedekovic, Martina	CRO	2:12:48
57. Gomes, Graca	POR	1:58:04	57. Santos, Cristina	POR	2:21:48

出場者数 57名

予選全出場者 254名

クラシカル決勝（8月16日）

男子

1	Maartensson	Joergen	SWE	1:30:19
2	Salmi	Janne	FIN	1:32:04
3	Joergensen	Carsten	DEN	1:33:38
4	Karpinen	Timo	FIN	1:33:39
5	Prokes	Tomas	CZE	1:33:51
6	Tvedt	Jon	NOR	1:33:53
7	Zridkavese	Libor	CZE	1:34:12

女子

1	Olah	Katalin	HUN	1:05:50
2	Koskivaara	Eija	FIN	1:08:39
2	Hague	Yvette	GBR	1:08:39
4	Jansson	Marlena	SWE	1:08:44
5	Kvnig	Vroni	SUI	1:09:22
6	Sandstad	Hanne	NOR	1:09:48
7	Cieslarova	Jana	CZE	1:10:09

8	OmelchenkoYuri	UKR	1:34:20	8	Romanens Marie-Luc	SUI	1:10:17
9	Alekseev Vladimir	RUS	1:35:10	9	Kubatkova Marcela	CZE	1:10:43
10	Sild Sixten	EST	1:35:16	10	Schmitt GrFrauke	GER	1:11:13
11	Terkelsen Chris	DEN	1:35:18	11	Staff Hanne	NOR	1:11:14
12	Ambrazas Svajunas	LTU	1:35:25	12	Bogren Anna	SWE	1:11:42
13	Holmquist Lars	SWE	1:35:45	13	Tiira Kirsi	FIN	1:12:58
14	Bjørlo Kjetil	NOR	1:36:16	14	Sandstad Gro	NOR	1:13:00
15	Buehrer Thomas	SUI	1:36:20	15	Honkala Katja	FIN	1:13:07
16	Skovlyst Torben	DEN	1:36:44	16	Garin Anna	ESP	1:13:11
17	Coupat Olivier	FRA	1:36:50	17	Palcau Marie-Vio	FRA	1:13:24
18	Kozlov Vladimir	RUS	1:37:20	18	Meister-FeSabrina	SUI	1:13:26
19	Thoresen Petter	NOR	1:37:21	19	Granstedt Anette	SWE	1:13:46
20	Aebersold Christian	SUI	1:37:24	20	Wolf Brigitte	SUI	1:13:52
21	Parkkinen Keijo	FIN	1:38:03	21	Jaksanova Tatjana	RUS	1:14:12
22	Valstad Bjørnar	NOR	1:38:07	22	Grøndahl Christina	DEN	1:15:24
23	Mattinen Reijo	FIN	1:38:13	23	Pletnjova Natalja	RUS	1:15:56
24	Grende Ants	LAT	1:38:15	24	Gustafsson Maria	SWE	1:16:08
25	Sadilek Martin	CZE	1:38:22	25	Kaljus Kalli	EST	1:16:17
26	Ivarsson Johan	SWE	1:38:46	26	Bvhm Lucie	AUT	1:16:34
27	Hjerrild Thomas	DEN	1:38:50	27	Gelderman Marquita	NZL	1:17:10
28	Birklin Jimmy	SWE	1:39:33	28	Andersen Ragnhild	NOR	1:17:12
29	Berger Alain	SUI	1:39:40	29	Xylander Anke	GER	1:17:45
30	Lantos Zoltan	HUN	1:40:25	30	Vinnitskai Nina	UKR	1:17:53
31	Hale Steven	GBR	1:40:29	31	Robinson Tania	NZL	1:18:49
32	Porzycz Janusz	POL	1:40:31	32	Novotna Petra	CZE	1:18:57
33	Ropek Rudolf	CZE	1:40:59	33	Honzova Maria	CZE	1:19:16
34	Mikhailov Alexander	UKR	1:41:09	34	Kovacs Bernadett	HUN	1:19:27
35	Trukhan Igor	UKR	1:41:11	35	Bokros Andrea	HUN	1:19:30
36	Palmer Stephen	GBR	1:41:13	36	Abola Alida	LAT	1:19:34
37	Brantner Martin	AUT	1:41:21	37	Young Alix	AUS	1:19:41
38	Landels Alistair	NZL	1:41:31	38	Rowe Natasha	AUS	1:20:26
39	Szczerk Miroslaw	POL	1:41:34	39	Monro Heather	GBR	1:20:59
40	Voveris Edgaras	LTU	1:41:53	40	Soulard Juliette	FRA	1:21:02
41	Perrin Eric	FRA	1:42:40	41	Baczek Barbara	POL	1:21:12
42	Kitchin Andy	GBR	1:43:26	42	Mansson Danute	LTU	1:21:32
43	Halder Lothar	GER	1:43:31	43	Viilo Annika	FIN	1:22:08
44	Thierolf Michael	GER	1:44:29	44	Bluett Tracy	AUS	1:22:19
45	Domonyik Gabor	HUN	1:45:30	45	Rakimova Svetlana	RUS	1:22:49
46	Vinicza Ferenc	HUN	1:45:41	46	Creagh Una	IRE	1:23:10
47	Peel David	GBR	1:46:35	47	Nikolova Eleonora	BUL	1:23:34
48	Viitman Alar	EST	1:46:39	48	Lovasi Katalin	HUN	1:24:04
49	Gassner Ferri	AUT	1:47:23	49	Hall Kristin	USA	1:24:20
50	Stanev Orlin	BUL	1:47:25	50	von Gaza Anke	GER	1:25:07
51	Key Warren	AUS	1:47:42	51	Rasmussen Tine	DEN	1:25:09
52	Jessop Robert	NZL	1:48:01	52	Fey Zsuzsa	ROM	1:25:11
53	Sulcys Nerijus	LTU	1:48:20	53	Rudzenskai Vilma	LTU	1:25:51
54	Pradel Roberto	ITA	1:48:57	54	Staneva Tatjana	BUL	1:27:05
55	Zagars Ivars	LAT	1:49:37	55	Viner Emily	AUS	1:28:01
56	Chtcherbin Vitali	UKR	1:49:37	56	Fjordside Yvonne	DEN	1:28:33
57	Bluett Grant	AUS	1:50:53	57	Wood Antonia	NZL	1:29:36
58	Pompe Tilo	GER	1:50:56	58	Pilipenko Galina	LTU	1:33:11
59	Breckle Rolf	GER	1:52:23	59	Hellmann Kerstin	GER	1:33:27
60	Moszkowicz Pawel	POL	1:56:20	60	Dickburt Catherine	BEL	1:33:56
61	Theiss Robert	BEL	1:59:27	61	Susta Ieva	LAT	1:41:49
62	Pollak Jozef	SVK	2:10:45				

出場者数 63名

出場者数 62名

(ドイツを代表する選手については、30位より下位でも、トップの150%以内であれば、決勝を走ることができる。また女子では予選のスタートのトラブルによりクレームがついて31位のデンマーク選手が決勝のスタートを認められているので、出場者は予選通過数の60名より多い)。

ショート

男子

予選1組

1	Ivarsson	J	SWE	31:21
2	Hale	S	GBR	31:59
3	Ambrazas	S	LTU	32:30
4	Sild	S	EST	32:49
5	Alekseev	V	RUS	33:04
6	Plattner	C	SUI	33:05
7	Nymalm	S	FIN	33:07
8	Giroux	J-D	FRA	33:14
9	Leiboms	A	LAT	33:39
10	Tvedt	J	NOR	33:46
11	Utinek	P	CZE	34:07
12	Mogensen	A	DEN	34:18
13	Jonas	R	SVK	34:59
14	Thierolf	M	GER	35:23
15	Trukhan	I	UKR	35:31

予選2組

1	Karppinen	T	FIN	31:48
1	Banach	R	POL	31:48
3	Palmer	S	GBR	31:53
3	Lueckmann	A	GER	31:53
5	Bjxrlo	K	NOR	32:00
6	Mertensson	J	SWE	32:41
7	Berger	A	SUI	33:20
8	Perrin	G	FRA	33:37
9	Vegeris	G	LAT	33:43
10	Jxrgensen	C	DEN	33:52
11	Lantos	Z	HUN	33:54
12	Armaais	V	LTU	34:01
13	Emaldynov	U	RUS	34:05
14	Petit	H	BEL	34:33
15	Prokes	T	CZE	34:50

16	Sacchet	D	ITA	35:34
17	Szczurek	M	POL	35:56
18	Gamauf	M	AUT	36:31
19	Ashmore	D	NZL	36:36
20	Pinker	M	IRE	36:43
21	Viniczai	F	HUN	37:29
22	鹿島田浩二	JPN	JPN	38:09
23	Ryzkov	Y	BLR	38:35
24	Russell	J	AUS	39:02
25	Heikoop	M	NED	41:59
26	Chiriac	R	ROM	42:13
27	Hennes	M	BEL	42:18
28	Anderluh	G	SLO	43:00
29	Wellis	C	RSA	44:24
30	Reis	A	POR	44:47
31	Falardeau	F	CAN	46:18
32	Marchiotti	I	CRO	48:44
33	Levitsky	P	ISR	49:03
34	Telnov	V	KAZ	49:25
35	Talavero	R	ESP	52:34

16	Viitmaa	A	EST	35:25
17	Salopek	T	CRO	36:38
18	Bonek	P	AUT	36:45
19	Farquhar	D	NZL	36:59
20	Chtcherbina	V	UKR	37:00
21	Wallner	J	SVK	37:13
22	Wymer	E	AUS	37:38
23	Smith	W	CAN	37:53
24	Duga	O N	ROM	38:05
25	Bespalov	R	BLR	38:15
26	Simoni	C	ITA	38:33
27	村越真		JPN	38:37
28	Logue	J	IRE	41:18
29	Egorov	S	KAZ	41:41
30	Lebar	D	SLO	42:43
31	Bone	E	USA	43:47
32	De Wolff	B	NED	45:03
33	Cordeiro	F	POR	47:51
34	Siegenthaler	R	RSA	48:23
35	Chissick	D	ISR	48:50

予選3組

1	Grende	A	LAT	32:13
2	Valstad	B	NOR	32:28
3	Gassner	F	AUT	32:29
4	Omeltchenko	Y	UKR	32:36
5	Ek	P	SWE	32:51
6	Ropek	R	CZE	33:00
7	Salmi	J	FIN	33:02
8	Kozlov	V	RUS	33:31
9	Porzycz	J	POL	33:58

予選4組

1	Buehrer	T	SUI	31:09
2	Coupat	O	PRA	33:16
3	Pollak	J	SVK	33:18
4	Zagars	I	LAT	33:19
5	Mattinen	R	FIN	33:20
6	Tveite	H	NOR	33:22
7	Terkelsen	C	DEN	33:29
8	Zridkavesel	L	CZE	33:44
9	Musgrave	J	GBR	33:49

10 Peel	D	GBR	34:18	10 Sibiljov	S	RUS	33:54
11 Stanev	O	BUL	34:25	11 Bluett	G	AUS	33:57
12 Hjerrild	T	DEN	34:26	12 Brantner	M	AUT	34:26
13 Domonyik	G	HUN	34:33	13 Holmquist	L	SWE	34:27
14 Voveris	E	LTU	34:38	14 Pavlovics	G	HUN	35:16
15 Pardoe	M	CAN	35:33	14 Nutju	O M	ROM	35:16
16 Pompe	T	GER	35:35	16 Corona	P P	ITA	35:20
17 Key	W	AUS	36:13	17 Halder	L	GER	35:30
18 Tiit	M	EST	37:03	18 Landels	A	NZL	35:46
19 Aebersold	C	SUI	37:12	19 Sulcys	N	LTU	36:17
20 Haberkorn	B	FRA	37:20	20 Graham	B	CAN	36:40
21 Scarborough	J	USA	37:31	21 Gutak	M	UKR	37:17
22 Simon	A	ROM	38:08	22 Kaniski	T	CRO	37:40
23 Dalla Santa	D	ITA	38:30	23 Ottesson	R	EST	37:55
24 Bukovac	M	SVK	39:33	24 Moszkowicz	P	POL	38:11
25 加賀屋博文		JPN	39:40	25 Goossens	D	BEL	40:22
26 Poljansek	A	SLO	39:55	26 Brautigam	J	USA	41:23
27 Linton	S	IRE	40:26	27 Alexeenok	A	BLR	41:46
28 Jessop	R	NZL	41:16	28 Mooiman	G	NED	42:32
29 Vandemoortel	B	BEL	42:06	29 Piqeiro	R	ESP	42:56
30 Palma	P	POR	42:15	30 Sirgio	L	POR	43:17
31 Eefting	E	NED	42:28	31 鈴木康史		JPN	43:21
32 Rojas	A	ESP	48:29	32 Sajb	L	KAZ	46:44
33 Alexeenok	A	BLR	53:23	33 Jevsevar	B	SLO	47:17
34 De Klerk	G	RSA	54:47	34 Dutkiewicz	C	RSA	52:57

女子

予選1組

1 Olah	K	HUN	29:01
2 Jaksanova	T	RUS	30:53
3 Garin	A	ESP	30:57
4 Cieslarova	J	CZE	30:59
5 Tiira	K	FIN	31:08
6 Meister-F	S	SUI	31:18
7 Robinson	T	NZL	31:38
8 Svrd	G	SWE	32:05
9 Schmalfeld	K	GER	32:30
10 Fossli	S	NOR	32:42
11 Vinnitskaiia	N	UKR	32:43
12 Nxrgaard	T	DEN	32:50
13 Pundure	M	LAT	32:58
14 Bluett	T	AUS	33:19
15 Mazuolyte	D	LTU	33:26

予選2組

1 Granstedt	A	SWE	28:12
2 Romanens	M-L	SUI	28:20
3 Schmitt	GranF	GER	29:32
4 Koskivaara	E	FIN	29:47
5 Honzova	M	CZE	30:26
6 Staff	H	NOR	30:46
7 Mihalko	I	RUS	31:23
8 Guelfo	C	FRA	31:35
9 Nikolova	E	BUL	31:37
10 Bokros	A	HUN	31:48
11 Rowe	N	AUS	32:08
12 Hall	K	USA	32:23
13 Grxndahl	C	DEN	32:24
14 木植早生		JPN	33:15
15 Valdmane	V	LAT	33:39

16 Kaljus	K	EST	33:37
17 Monroe	H	GBR	33:45
18 James	P	CAN	33:57
19 Creagh	U	IRE	34:16
20 Piolat-M	A	FRA	34:52
21 Gornicka	A	POL	35:55
22 Thijs	A	BEL	38:48
23 Hartinger	U	AUT	38:55
24 Staneva	T	BUL	41:57
25 Newell	D	USA	43:57
26 Sedran	A	ITA	45:02

27 金田収子 JPN 47:13
 28 Bedekovic M CRO 56:22

27 De Osma M ESP 45:19
 28 Alarie M J CAN 47:57
 29 Almeida K POR 60:11

予選3

1 Hague Y GBR 27:07
 2 Bogren A SWE 28:11
 3 Hellmann K GER 29:50
 4 Giger K SUI 29:56
 5 Sandstad H NOR 29:57
 6 Bvhm L AUT 30:42
 7 Rudzenskaite V LTU 30:50
 8 Honkala K FIN 30:56
 9 Soulard J FRA 31:15
 10 Rakimova S RUS 31:48
 11 Ticha K CZE 32:19
 12 Lovasi K HUN 32:44
 13 Bruvere I LAT 32:46
 14 Dahl D DEN 33:51
 15 Rakayova M SVK 34:43

予選4

1 Koenig V SUI 27:50
 2 Kubatkova M CZE 27:54
 3 Jansson M SWE 28:05
 4 Palcau M-V FRA 30:18
 5 Xylander A GER 30:31
 6 Andersen R B NOR 30:34
 7 Mansson D LTU 30:58
 8 Young A AUS 31:09
 9 Lubinszki M HUN 31:09
 10 Gelderman M NZL 31:10
 11 Pletnjova N RUS 31:29
 12 Kolkkala R-M FIN 31:34
 13 Fjordside Y DEN 31:53
 14 Susta I LAT 32:39
 15 Fey Z ROM 33:11

16 Simon A ROM 35:01
 17 Fien M AUS 35:17
 18 Wood A NZL 35:22
 19 Brautigam P USA 36:01
 20 Leonovich A BLR 36:35
 21 Maturana E ESP 37:12
 22 Hagen C CAN 38:03
 23 Van Gulik A NED 38:21
 24 Renard F BEL 39:47
 25 Loughman E IRE 42:59
 26 Sajb N KAZ 46:31
 27 Hribar A SLO 48:53
 28 田島利佳 JPN 52:03

16 Dickburt C BEL 33:53
 17 Stripp S USA 35:11
 18 Mulder K NED 37:07
 19 Kuenzel C AUT 37:59
 19 Libantova K SVK 37:59
 21 Graham M CAN 41:05
 22 Scheglova I KAZ 41:06
 23 Amigo A ESP 41:50
 24 Mironova A BLR 41:59
 25 福士淑子 JPN 42:44
 26 Morrish E IRE 43:41
 27 Gomes G POR 63:46

ショート決勝

1 Omelchenko Y UKR 30:25
 2 Maartensson J SWE 31:31
 3 Valstad B NOR 31:36
 4 Buehrer T SUI 32:01
 5 Holmquist L SWE 32:14
 6 Ivarsson J SWE 32:26
 7 Plattner C SUI 32:40
 8 Berger A SUI 32:43
 9 Coupat O FRA 32:52
 10 Grende A LAT 33:03
 11 Salmi J FIN 33:06
 12 Tvedt J NOR 33:08
 13 Prokes T CZE 33:11
 14 Ambrasas S LTU 33:20
 14 Pollak J SVK 33:20
 16 Alekseev V RUS 33:27
 17 Hjerrild T DEN 33:30
 18 Hale S GBR 33:36
 19 Tveite H NOR 33:37
 20 Sild S EST 33:39

1 Romanens M-L SUI 28:55
 2 Hague Y GBR 29:16
 3 Bogren A SWE 29:29
 3 Jansson M SWE 29:29
 5 Schmitt Graf GER 29:31
 6 Kubatkova M CZE 29:42
 7 Staff H NOR 29:45
 8 Mihalko I RUS 29:53
 9 Granstedt A SWE 29:59
 10 Koskivaara E FIN 30:12
 11 Olah K HUN 30:33
 12 Kolkkala R-M FIN 30:34
 13 Andersen R B NOR 30:45
 14 Kvning V SUI 30:57
 15 Jakšanova T RUS 31:00
 16 Honzova M CZE 31:24
 17 Fossli S T NOR 31:34
 18 Sandstad H NOR 31:36
 19 Tiira K FIN 31:49
 20 Ticha K CZE 31:58

1:16:35 34	2:22:50 31	contr. m	5:15:09 0
IRE Logue J	Pinker M	Edwards B	Rothery C
0:56:42 23	1:55:06 22	contr. m	4:50:45 0

リレー女子

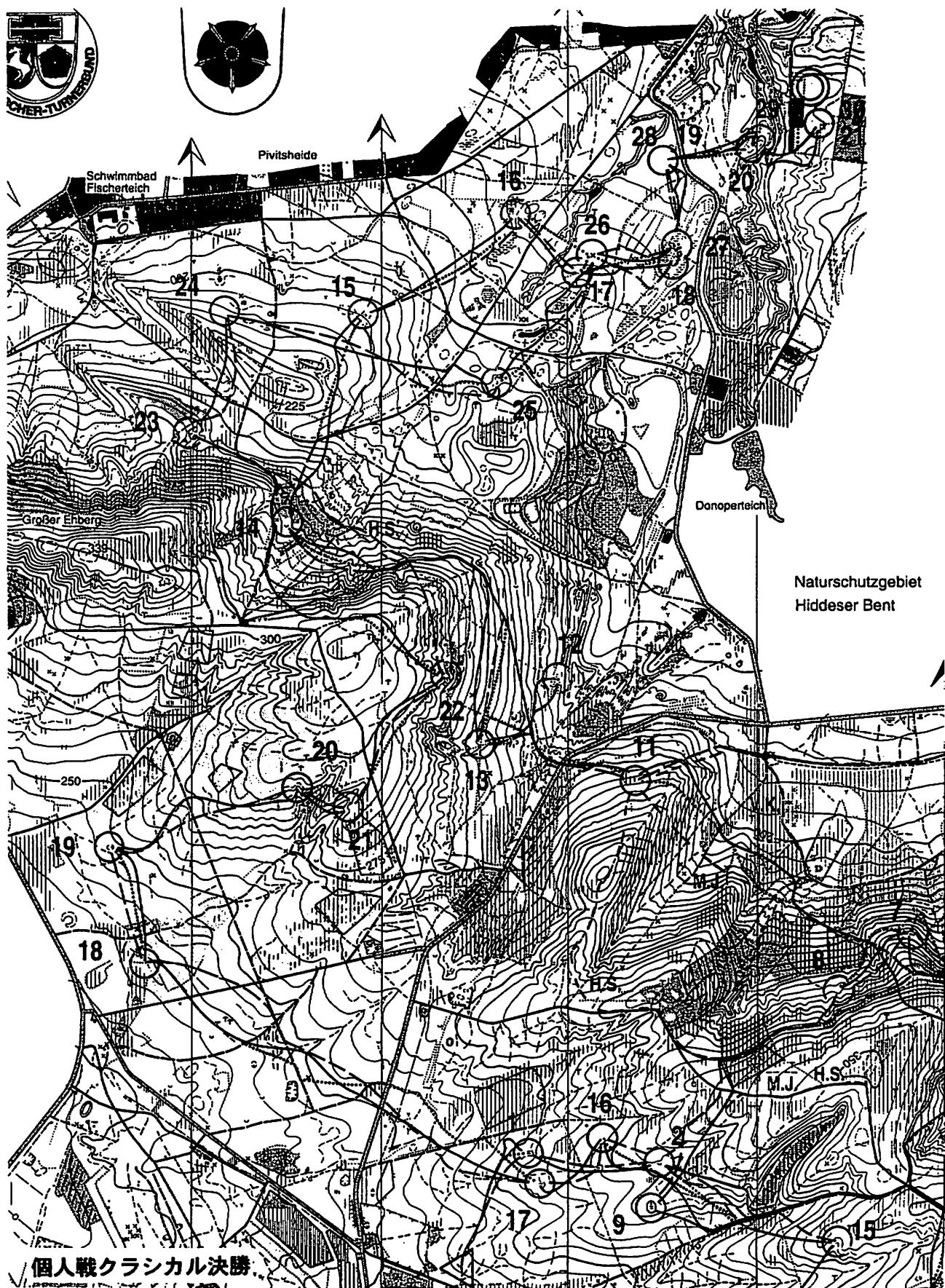
順位・国	1走 経過時間と順位	2走	3走	4走
1. FIN Tiira K	Kolkkala R	Koskivaara E	Viilo A	
0:31:53 1	1:04:13 1	1:55:58 1	2:50:33 1	
2. SWE Granstedt A	Gustafsson M	Bogren A	Jansson M	
0:34:50 7	1:08:08 4	2:02:04 4	2:52:11 2	
3. CZE Novotn P	Honzov M	Kubatkova M	Cieslarova J	
0:34:41 5	1:07:58 3	2:01:10 2	2:53:06 3	
4. SUI Koenig V	Meister-FeS	Wolf B	Romanens M-L	
0:32:03 2	1:05:41 2	2:01:54 3	2:58:06 4	
5. GER Hellmann K	Schmalfeld K	Xylander A	Schmitt GrF	
0:33:42 3	1:10:14 6	2:07:52 6	3:01:42 5	
6. NOR Sandstad G	Andersen R B	Sandstad H	Staff H	
0:37:00 14	1:12:54 10	2:07:54 7	3:02:22 6	
7. HUN Bokros A	Lubinszki M	Lovasi K	Olah K	
0:34:35 4	1:10:41 7	2:10:47 9	3:03:27 7	
8. GBR James J	Bedwell A	Monro H	Hague Y	
0:35:00 9	1:13:15 12	2:15:41 10	3:06:52 8	
9. RUS Pletnjova N	Rakimova S	Jaksanova T	Mihalko I	
0:34:45 6	1:12:54 10	2:10:40 8	3:07:02 9	
10. DEN Rasmussen T	N gaard T	Gr dahl C	Dahl D	
0:35:21 11	1:10:08 5	2:05:32 5	3:10:42 10	
11. FRA Guelfo C	Soulard J	Piolat-ManA-M	Palcau M-V	
0:34:53 8	1:10:58 8	2:20:11 11	3:23:21 11	
12. AUS Bluett T	Viner E	Rowe N	Young A	
0:35:06 10	1:12:22 9	2:21:57 12	3:23:52 12	
13. NZL Gelderman M	Adams J	Wood A	Robinson T	
0:36:22 13	1:25:13 15	2:30:15 16	3:30:24 13	
14. LTU Mansson D	Mazuolyte D	Rudzenskai V	Voveriene G	
0:43:00 18	1:21:58 13	2:25:42 13	3:40:04 14	
15. AUT K zel C	Habenicht R	Boehm L	Hlosta M	
0:41:46 16	1:26:32 17	2:26:04 14	3:41:31 15	
16. USA Dickison P	Brautigam P	Stripp S	Hall K	
0:47:20 20	1:31:31 18	2:42:16 17	3:41:45 16	
17. LAT Susta I	Valdmane V	Abola A	Bruvere I	
0:38:24 15	1:24:47 14	2:26:08 15	3:49:30 17	
18. BEL Thys A	Schutjes E	Dickburt C	Renard F	
0:44:08 19	1:37:48 19	2:45:04 18	4:01:39 18	
19. ESP Amigo A	De Osma M	Garin A	Maturana E	
0:54:57 22	1:58:21 23	2:54:30 19	4:04:11 19	
20. IRE Creagh U	Cleary J	Morrish E	Higgins N	
0:42:51 17	1:41:42 20	2:57:11 20	4:08:45 20	
21. JPN 福士淑子	金子しのぶ	木植早生	田島利佳	
0:55:42 23	1:46:29 21	3:01:39 21	4:23:51 21	
22. BLR Leonovich A	Alexeenok B	Mironova A	Polykova T	
0:52:09 21	1:48:14 22	3:03:48 22	4:26:53 22	
CAN James P	Bruno M	Akarie M	Hagen C	
0:35:48 12	1:26:18 16	n. fin. 0	4:09:08 0	
POR Santos C	Dominguez A	Almeida K	Silva A	
n fin. 0				

Damen / Women

- 1. Katalin Oláh HUN 65:50
- — 2. Yvette Hague GBR 68:39
- 2. Eija Koskivaara FIN 68:39

Herren / Men

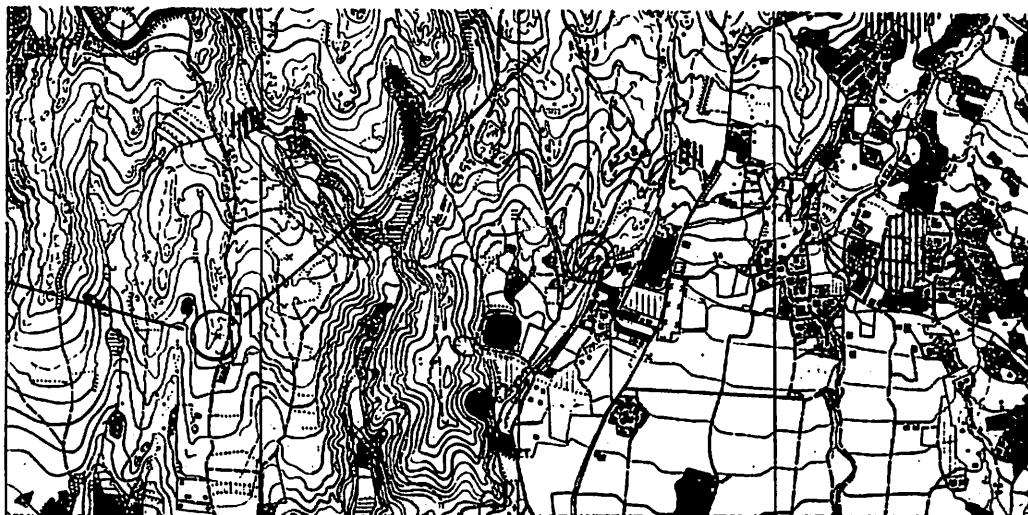
- 1. Jörgen Mårtensson SWE 90:19
- — 2. Janne Salmi FIN 92:04
- 3. Carsten Jørgensen DEN 93:38



個人戦クラシカル決勝

春・夏・秋・冬

合宿は八ヶ岳高原 八ヶ岳レジャーセンター大泉



409-15 山梨県北巨摩郡大泉村谷戸 5618

tel: 0551-38-2231

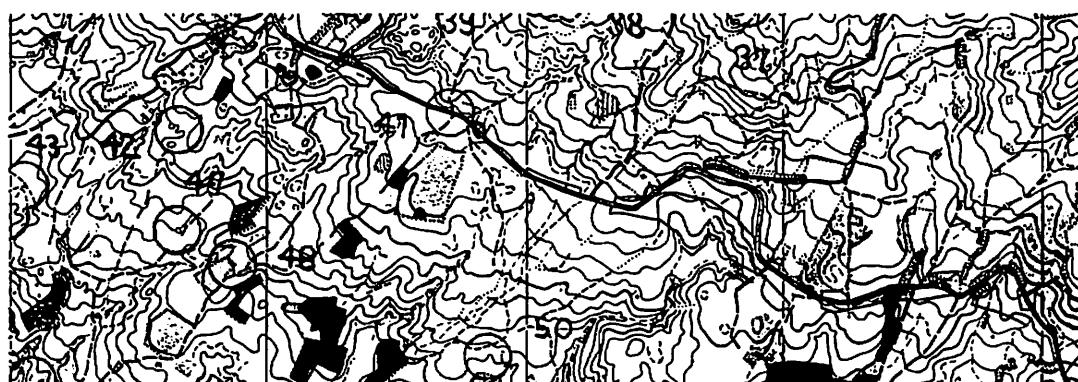
fax: 0551-38-2232

スポーツ・ピレッジ

村山ジャンボ

富士の裾野に広がる雄大なスポーツ合宿センター

富士駅、新富士駅、テレインまでマイクロバスにて送迎いたします。富士愛鷹、
飯盛林道至近、合宿に最適



418 静岡県富士宮市元村山 1071-2

tel: 0544-27-8438

夜間 26-4438

27-1215

fax: 0544-26-4438

**第16回オリエンテーリング
世界選手権大会報告書**

発行：W O C S Q U A D J A P A N
発行人：宮川 達哉
編集：村越 真
事務局：稻葉英雄
444 岡崎市美合町字小豆坂20-1
1-トピア 小豆坂211
TEL:0564-55-5602,
